

平成28年度分野事務局等施策運営目標の中間評価について

平成28年10月

関西広域連合

平成 28 年各分野別事務局等施策運営目標の中間評価について

1	総括	1
2	各分野別個票	
	○ 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西	7
	○ 国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西	10
	○ 国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西（スポーツ振興）	20
	○ 国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西（ジオパーク推進）	23
	○ 世界に開かれた経済拠点を有する関西	24
	○ 歴史と伝統ある関西の食文化を支える農林水産業	28
	○ 医療における安全・安心ネットワークが確立された関西	32
	○ 地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西 ー環境先進地域「関西」へのさらなる挑戦ー	36
	○ 資格試験・免許事務等事務の一元的な実施・管理による効率化	43
	○ 広域職員研修の実施	44
	○ 関西全体の広域行政を担う責任体制を確立する	45
	○ 世界に開かれた経済拠点を有する関西（特区）	46
	○ 世界に開かれた経済拠点を有する関西（イノベーション推進）	47
	○ 広く国民の理解が得られているエネルギー政策のもとで、 ・ 環境に配慮した、低廉で安全かつ安定した電力・エネルギー供給体制が構築されている。 ・ 関西の高い省エネ意識の下、省エネ型ライフスタイル・ビジネススタイルが定着している。 ・ 関西の特性に応じた再生可能エネルギーが最大限活用されている。 ・ 関西の企業が有する技術・強みが活かされ、活発な産業活動が行われている。	48
	○ 人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点関西	49
	○ 広域連合の見える化の推進	50
3	今後の予定	
	○ 平成 28 年 11 月：全員協議会に報告	

(評価について)

本年5月に各事業分野等にて策定した施策運営目標に対して9月現在の進捗状況を把握し、次の基準により自己評価を行う。

【評価と基準】

- A 目標達成 (目標達成済み)
- B ほぼ計画通りに進んでいる (目標達成に向けスケジュールどおりに進んでいる / 目標の5割以上を達成済みなど)
- C 計画通りに進んでいない (想定したスケジュールどおり進んでいない / 目標の達成が困難な見通しなど)

平成28年度各分野事務局等施策運営目標(中間評価)について(総括)

分野事務局等	施策運営目標	アウトプット	評価
広域防災	大規模広域災害を想定した広域対応の推進	(1) 関西防災・減災プラン及び応援・受援実施要綱の見直し	C
		(2) 南海トラフ巨大地震応急対応マニュアルのフォローアップ	B
		(3) 南海トラフ巨大地震関西広域対策集の作成	
		(4) 九都県市との連携強化	B
		(5) 首都直下地震に備えた応援体制の検討	
		(6) WEBを利用した災害情報提供ツールの検討	B
		(7) 関西広域防災情報システムの運用	
	関西の広域防災拠点のネットワーク化の推進	(1) チェックリストの作成、及びワークショップの結果を踏まえたチェックリストの検証等を実施	B
	防災・減災事業の推進	(1) 帰宅支援ガイドラインの策定	B
		(2) 災害時帰宅支援ステーション事業の実施	
(3) 広域応援訓練(実動・図上)の実施		B	
(4) 原子力災害時の広域避難に向けた受入訓練の実施		A	
(5) 基礎研修等の実施		B	
(6) 防災担当新任職員研修の実施		C	
(7) 防犯防災総合展等への出展		A	
(8) 広域防災PR用パンフレットの作成		B	
(9) 防災庁が有すべき機能に関する検討		B	
広域観光・文化・スポーツ振興	『関西観光・文化振興計画』の推進	(1) 関西観光・文化振興計画の数値目標等を見直しを行う。	B
	「KANSAI」を世界に売り込む	(1) 新広域観光周遊ルート誘客促進事業において現地旅行博に出展する。	C
		(2) 美の伝説ルート誘客促進事業において、対象市場に向けたプロモーション等を行う。	
		(3) 「KANSAI国際観光YEAR」事業を実施する。	B
		(4) アジア等で観光プロモーションを実施する。	
	新しいインバウンド市場への対応	(1) 関西観光WEBにおいて、関西の魅力を発信する。	
		(2) アジア等で海外トッププロモーションを実施する。	B
	的確なマーケティング戦略による誘客	(1) 「KANSAI観光大使」を新たに任命する。 (2) SNSによる情報発信を行う。	B
	安心して楽しめるインフラ整備の充実	(1) 通訳案内士のスキルアップ研修を行う。	B
	推進体制の充実	(1) 関西国際観光推進本部による官民連携の取組を推進する。	B
関西文化の振興と内外への魅力発信	(1) アーティスト・イン・レジデンスを活用した地域の魅力や先進的な取組を語り、学びあう国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス」を開催する。	B	
	(2) 関西各府県の「祭り情報」を広域で一元的にデータベース化し、英語対応も含め内外に発信してきた「関西祭.com」を、東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向け多言語対応を進める。	A	
連携交流による関西文化の一層の向上	(1) 「日本遺産」をテーマに観光分野・関係団体等とも連携し、フォーラムの開催等により関西全域での観光文化振興につなげる。	B	
関西文化の次世代継承と人材育成	(1) 東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向けた関西オリジナル企画等の公募に基づいた事業を実施し、若手人材の実践的な育成を行う。	B	
情報発信・連携交流支援・人づくりを支える環境(プラットフォーム)づくり	(1) 関西文化の内外への発信を強化し、関西文化を一体となって振興するために、様々な分野の専門家等から幅広い知見を求め今後の戦略を検討するとともに、さらなる行政等間の連携交流を図るため、「はなやか関西・文化戦略会議」を開催する。	B	

平成28年度各分野事務局等施策運営目標(中間評価)について(総括)

分野事務局等	施策運営目標	アウトプット	評価
広域観光・文化・スポーツ振興 (スポーツ部)	「関西広域スポーツ振興ビジョン」の推進	(1) ビジョン推進会議において、施策運営目標の実現に向けた事業を企画立案	B
	関西における広域的、国際的スポーツ大会の招致及び開催支援	(1) ビジョン推進会議において、施策運営目標の実現に向けた事業を企画立案	B
	国際スポーツ大会キャンプ地等の誘致支援	(1) ビジョン推進会議において、施策運営目標の実現に向けた事業を企画立案	B
広域観光・文化振興 (ジオパーク推進)	「KANSAI」を世界に売り込む	(1) 海外トッププロモーションの際に、PRブースを設置し、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークや南紀熊野ジオパークをはじめ、関西の優れた景観等をPRする。	B
		(2) 外国人観光客向けガイドブック等で、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークや南紀熊野ジオパークなど、関西の優れた地質・景観を巡る旅を「地質の道」としてPRする。	
広域産業振興	世界の成長産業をリードするイノベーション創出環境・機能の強化	(1) 「メディカル ジャパン」を活用した関西のポテンシャルの発信	B
		(2) 医療機器分野への参入に向けた医療機器相談の実施	B
		(3) 「次世代医療システム産業化フォーラム」企業説明会の開催	B
		(4) 「グリーン・イノベーション研究成果企業化促進フォーラム」の実施	B
		(5) 新エネルギー産業分野への参入に向けた講座の開催	A
		(6) 「バッテリー戦略研究センター」の活用促進	B
	高付加価値化による中堅・中小企業等の国際競争力の強化	(1) 「海外企業等との経済交流事業」の実施	B
		(2) 府県市主催商談会等の相互活用	B
		(3) 公設試の連携・情報の共同発信	B
		(4) ビジネスサポートデスクの共同運用	B
「関西ブランド」の確立による地域経済の戦略的活性化	(5) 府県市が実施する新商品調達認定制度の広報連携	B	
	(6) スモールビジネスモデル共有センターによる情報発信	B	
企業の競争力を支える高度人材の確保・育成	(1) 海外トッププロモーションの実施	A	
	(2) 国内プロモーションの実施	B	
広域産業振興 (農林水産部)	地産地消運動の推進による域内消費拡大	(3) 農商工連携の促進	B
		(1) 「高度産業人材に関する関西広域産学官連絡会議」の開催	B
		(1) 地産地消運動の趣旨に賛同する企業等を「おいしい！ KANSAI応援企業」として登録し、社員食堂や職員食堂でのエリア内農林水産物を使った料理の提供を通じて消費拡大を図る。	B
	(2) 学校給食向けの食材を直売所から直接供給できるシステムの構築や、学校栄養士等を対象とした関西広域連合給食試食会、府県域を越えた出前授業を開催する。		
	(3) 直売所の集客増加を図るため、既存観光アプリを活用した直売所ナビの作成や、直売所間交流を促進するためのマッチングサイトの活用を推進する。		
	食文化の海外発信による需要拡大	(1) 関西の農林水産物・加工品及び食文化の情報を、リーフレット・ホームページを通じて、国内外へ情報発信する。	B
	国内外への農林水産物の販路拡大	(1) 広域観光・文化振興局が実施する関西観光物産展などのPRイベントで、「関西の食リーフレット」を配付する。	B
		(2) 事業者向け海外輸出セミナーを開催する。	
	農林水産業を担う人材の育成・確保	(1) 構成府県市の就農情報を掲載した「関西広域連合就農ガイド」を作成し、広域連合エリア外において各府県市が実施する就農相談会で配布する。 (2) 広域連合ホームページ内に構成府県市の情報を集約した「就農促進サイト」を開設し、広域連合エリア内への就農につなげる。	B

平成28年度各分野事務局等施策運営目標(中間評価)について(総括)

分野事務局等	施策運営目標	アウトプット	評価	
広域医療	『関西広域救急医療連携計画』の推進	(1) 関西広域救急医療連携計画推進委員会	B	
	広域救急医療体制の充実	(1) 「3府県ドクターヘリ」及び「兵庫県ドクターヘリ」に対する支援	B	
		(2) 「大阪府ドクターヘリ」、「徳島県ドクターヘリ」及び「京滋ドクターヘリ」の運航事業の実施		
		(3) ドクターヘリを活用した訓練の実施		
		(4) ドクターヘリの「普及・啓発イベント」の実施		
		(5) 「ドクターヘリ関係者会議」を開催し、ドクターヘリに関係する諸課題の検討を行う。		
		(6) 関西広域連合が行う平成29年度国の予算編成等に対する提案により「ドクターヘリ関連予算の確保」の提案を行う。		
		(7) 広域連合管内のドクターヘリ基地病院と連携し、ドクターヘリ搭乗人材(医師・看護師)の養成研修を行う。		A
		(8) 各基地病院内での研修(OJT)等により、ドクターヘリ搭乗人材(医師・看護師)の育成を行う。		
	災害時における広域救急医療体制の整備・充実	(1) 災害医療コーディネーター養成研修	B	
(2) 近畿府県合同防災訓練と連携し、大規模災害時における広域医療連携体制構築のため、広域医療連携体制構築のための広域的な災害医療訓練を行う。		B		
(3) 「緊急被ばく医療」に係る体制構築を図るため、広域防災局とも連携を図りながら関係機関と協議・検討等を実施する。		B		
新たな連携課題に対応した広域医療体制の構築	(1) 危険ドラッグや大麻等、実態に即した事案に対応した合同研修を行う。	B		
	(2) 国の動向を踏まえながら、「小児がん医療」連携に向けた検討を行う。	B		
	(3) 近畿ブロック周産期医療広域連携検討会を開催する。	B		
	(4) ジェネリック医薬品、アルコール依存症対策および臓器移植推進に向けた情報共有	B		
広域環境保全	「関西広域環境保全計画」の推進	(1) 外部有識者で構成する「関西広域環境保全計画に関する有識者会議」において、事業の実施状況を報告し、事業の点検・評価等について助言を得て、計画の進行管理を行う。	B	
		(2) 現行計画の進行管理を踏まえて、有識者会議等において検討を進め、次期広域環境保全計画をとりまとめる。		
	再生可能エネルギーの拡大と低炭素社会づくりの推進	(1) エネルギー検討会と連携し、構成府県市および全国の導入促進施策や再生可能エネルギー発電事業の事例等の情報収集・調査研究を行うとともに、検討会議を開催し、効果的な促進方策の検討を行う。	B	
		(2) ポータルサイトを活用し、構成府県市で実施している太陽光発電事業に係るマッチング事業、相談窓口等の情報、先進事例等を発信する。	B	
		(3) 構成府県市だけでなく経済団体、関西以外の広域連携団体とも連携して関西夏冬のエコスタイルキャンペーンを実施するとともに、関西エコオフィス運動を広く展開するため、エコオフィス宣言事業所の拡大を図る。		
		(4) 各地域における住民・事業者への働きかけを促進するため、地球温暖化防止活動推進員や地域センターとの連携を図ると共に、環境産業展示会での温暖化対策事業のPRを行う。	B	
		(5) プラットフォーム事業者との連携により事業のPRを実施するとともに、今後の取組についても検討を行う。		
		(6) 平成27年度に取り組んだ連合委員会の会議のオフセット取組を含めた制度の広報を行うとともに、今後の取組についても検討を行う。	B	
(7) 充電環境の整備について全国レベルでの取組との連携を進める。	B			
(8) 自動車メーカーの協賛を得て引き続き写真コンテストを実施する。				

平成28年度各分野事務局等施策運営目標(中間評価)について(総括)

分野事務局等	施策運営目標	アウトプット	評価
広域環境保全	自然共生型社会づくりの推進	(1) 第1期広域保護管理計画に基づき、以下の取組により地域毎に被害対策実施体制の整備を進める。	B
		(2) 第1期広域保護管理計画の取組評価や、カワウの生息状況等の変化、新たな知見をふまえて、関西地域カワウ広域保護管理計画(第2期)を策定する。	
		(3) 捕獲事業を管理監督できる人材を養成するための講座を開設し、運営する。	B
		(4) モデル地域において、捕獲技術者、自治体、土地所有者などが連携・協力した捕獲体制による試行的捕獲を実施する。	
		(5) 効果的・効率的な防除法を検討し外来獣等防除マニュアルを作成し普及を図る。	
		(6) ツキノワグマにかかる担当者会議の開催。	C
		(7) 関西の活かしたい自然エリアを決定する。	
		(8) 関西の活かしたい自然エリアの普及・啓発に取り組む。	
		(9) 構成府県市担当者等への自然エリアの説明会を開催する。	
		(10) 昨年度選定した生態系サービス指標を計算し、グラフ化、地図化を行う。	
		(11) 指標をはじめ、収集・蓄積したGISデータの各構成自治体への提供	
		(12) 構成府県市担当者等への生態系サービス指標の説明会を開催する。	C
	(13) 指標等のGISデータを様々な範囲で集計、可視化し、施策に活用するための構成府県市担当者等への研修会を開催する。		
循環型社会づくりの推進		(1) 引き続き、統一キャッチコピーおよびロゴマークを使用して啓発活動を展開する。	B
		(2) 住民への啓発を兼ねてマイバッグ持参運動の啓発動画を一般公募で制作する。	
		(3) マイボトルスポットMAPを更新し、マイボトル運動の普及を図る。	
		(4) 優れた環境資源や先進的な取組を行う企業を紹介するWEBページを作成する。	
		(5) 下水汚泥の広域的な利活用の可能性について検討を行う。	
環境人材育成の推進		(1) 構成府県市における地域特有の環境学習プログラムをモデルとして、関西広域連合の圏域において、地域の環境課題等について相互に理解するための交流型環境学習を実施する。	B
		(2) 幼児期の気づきや感動を促す環境学習の効果およびその理論、実施方法等について理解を広め、幼児期の環境学習の指導者を育成するための研修会等を実施する。	
		(3) 各府県市で実施されている企業の環境学習プログラムの収集、共有	B
		(4) 各府県市で実施されている環境まちづくり情報の収集、共有	
資格試験・免許	資格試験、免許等事務の着実な推進	(1) 試験問題作成のため、試験ごとに試験委員会、調整部会を複数回実施する。	B
		(2) 予備問題の作成、セキュリティ強化に努める。	
		(3) 免許申請に対する処理を正確、迅速に行う。	B
		(4) 非行のあった免許所有者に対して厳正に対処するとともに、准看護師については、再教育研修を行う。	
広域職員研修	幅広い視野を有する職員の養成及び業務執行能力の向上 構成団体間の相互理解及び人的ネットワークの形成 研修の効率化	(1) 政策形成能力研修の実施	A
		(2) 各団体が主催する研修への相互受講参加	B
		(3) WEBを活用した研修の実施	B

平成28年度各分野事務局等施策運営目標(中間評価)について(総括)

分野事務局等	施策運営目標	アウトプット	評価
地方分権改革の推進 (国出先機関対策)	国出先機関の広域連合への移管をはじめとする分権改革の実現に向けた効果的取組の実施	(1) 構成府県・市の意見を踏まえつつ、広域連合委員会場において協議、検討する	B
		(2) 国の事務・権限の移譲に向けた関連法案整備及び政府諮問機関等での検討に係る内閣府・関係省庁等との協議を行う。(政府の地方分権改革有識者会議における「提案募集方式」への対応等を含む)。	
		(3) 適時適切に関西広域連合としての要請・意見書提出・コメント発出等を実施する。	
		(4) 琵琶湖・淀川流域の抱える全体の課題を取りまとめ、国や流域の府県、市町村、活動団体、住民等と情報共有を図る。	A
		(5) 今後の広域的な流域対策のあり方や統合的流域管理について議論を深め、提言書としてとりまとめる。	
特区分野	規制緩和等の実現に向けた戦略的な提案と国への働きかけの強化	(1) 国家戦略特区をはじめとする特区制度の改善や、活用促進に関する国への提案(国成長戦略等への関西からの提案、関係省庁との調整等)	B
		(2) 官民一体となった地域協議会事務局の運営を通じた関西国際戦略総合特区事業のさらなる推進	
		(3) 特区事業の広報	
イノベーション推進	産学官連携によるイノベーションの強化・推進	(1) 「関西健康・医療創生会議」の分科会・研究会等の運営や、創生会議の取組への企業の参画を促進するシンポジウムの開催など、産学官連携を促進する仕組みを支援する。	B
エネルギー政策推進	エネルギー政策の推進	(1) 電力需給見通しの検証を行い、必要に応じて、節電取組を促進する各種対策を展開する。	B
		(2) 再エネ導入促進等に関する情報収集、構成府県市間の情報共有を図るとともに、ポータルサイトを活用し施策等の情報発信を行う。	
		(3) 再エネ導入促進、エネルギー関連技術の開発の促進等に関する国への提案を行う。	
広域インフラ検討	広域交通インフラの機能強化	(1) 構成府県市等との調整・協議	B
		(2) 政府要望内容の検討・調整	B
		(3) 関西主要港湾の具体的な広域連携施策について実施を進める。	B
管理運営分野	情報発信の推進	(1) 住民に直結した取組事項と出前講座等、募集を全面に出した住民目線のホームページ内容の検討	C
		(2) ホームページと連携したフェイスブックの掲載強化	B
		(3) より充実した内容のホームページとするための新システムの導入検討	B
		(5) シンボルマークの設定	B
		(6) 新たな広報媒体	C

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域防災担当委員 井戸 敏三

基本目標 (目指すべき将来像)	◆ 危機に強く、防災・減災のモデルとなる関西
	○ 関西の防災に係る資源を活用し、そのネットワーク化を図ることにより、関西全体の安全・安心を向上させ、国内のみならず世界の防災・減災モデル“関西”を目指す
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	大規模広域災害を想定した広域対応の推進	評価区分	中間・最終
-------------------	---------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 関西防災・減災プランの推進	(1)関西防災・減災プラン及び応援・受援実施要綱の見直し (2)南海トラフ巨大地震応急対応マニュアル」のフォローアップ (3)南海トラフ巨大地震関西広域対策集の作成	○ 構成団体及び連携県の防災・危機管理能力向上 ○ 構成団体及び連携県の住民の防災・減災能力の向上、他圏域との連携強化を通じた関西全体の安全・安心の推進	(1)関西防災・減災プランの見直しの検討を継続して実施	C	(1)熊本地震対応により、想定したスケジュールに遅れが生じている。	継続実施	継続 (H26)
	予算額		3,532千円	(2)フォローアップのためのワークショップ開催に向け調整中 (3)業務委託のための事務手続き中	B		
2 相互応援体制の強化	(1)九都県市との連携強化 (2)首都直下地震に備えた応援体制の検討		(1)九都県市合同防災訓練に参加(9月) (2)広域防災局参与会議にて概要説明(5/27) ・報告書骨子作成(9月)	B	(1)救援物資搬送訓練等の実施により、応援・受援手順を確認した。引き続き、連携強化に向けた情報交換等を行う。 (2)スケジュールどおり進捗しており、年度内に報告書を公表できる見込みである。	継続実施	継続 (H26)
	予算額		931千円				
3 広域防災情報システムの充実	(1)WEBを利用した災害情報提供ツールの検討 (2)関西広域防災情報システムの運用		(1)事業推進方法について検討中 (2)「被害状況共有機能」操作訓練の実施(6月) ・同システムを活用し台風16号被害状況の取りまとめを実施	B	(1)スケジュールどおり事務を進めており、同事業を実施できる見込みである。 (2)訓練による操作方法の習熟や、災害発生時の被害状況の報告など、同システムを活用している。	継続実施	継続 (H26)
	予算額		2,672千円				

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域防災担当委員 井戸 敏三

施策運営目標2 (重点方針)		関西の広域防災拠点のネットワーク化の推進			評価区分	○中間・最終			
目標策定				評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)	
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)		アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)			
1	緊急物資円滑供給システムの構築		(1)チェックリストの作成、及びワークショップの結果を踏まえたチェックリストの検証等を実施	<ul style="list-style-type: none"> ○ 構成団体及び連携県の防災・危機管理能力向上 ○ 構成団体及び連携県の住民の防災・減災能力の向上、他圏域との連携強化を通じた関西全体の安全・安心の推進 	(1)チェックリストの検証等のためのワークショップ開催に向け調整中	B	(1)スケジュールどおり、検討及び調整を進めており、年度内に策定できる見込みである。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	507千円							

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域防災担当委員 井戸 敏三

施策運営目標3 (重点方針)	防災・減災事業の推進	評価区分	中間・最終
-------------------	------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 帰宅困難者対策の推進	(1)帰宅支援ガイドラインの策定 (2)災害時帰宅支援ステーション事業の実施	○ 構成団体及び連携県の防災・危機管理能力向上 ○ 構成団体及び連携県の住民の防災・減災能力の向上、他圏域との連携強化を通じた関西全体の安全・安心の推進	(1)策定に向けた検討を継続 (2)協定締結事業者の28年度連絡窓口及び店舗データを関係府県市あて送付(10月)	B	(1)スケジュールどおり、年度内に策定できる見込みである。 (2)ポスターの作成や、ステッカーの配布なども下半期に実施できる見込みである。	継続実施	継続 (H26)
	予算額		1,487千円				
2 広域応援訓練の実施	(1)広域応援訓練(実動・図上)の実施 (2)原子力災害時の広域避難に向けた受入訓練の実施		(1)開催府県(奈良県)との調整(4.8.9月)	B	(1)実動訓練(10月)、図上訓練(2月)に向け、関係機関等の調整を行っており、予定どおり実施できる見込みである。	継続実施	継続 (H26)
	予算額		7,645千円				
3 総合的・体系的な研修の実施	(1)基礎研修等の実施 (2)防災担当新任職員研修の実施		(1)基礎研修の実施(9月:大阪会場)	B	(1)他の研修についても、スケジュールどおり順次実施できる見込み。 (2)熊本地震対応により、着任当初の新人研修が実施できなかった。	継続実施	継続 (H26)
	予算額		580千円				
4 広域防災活動に関する情報の発信	(1)防犯防災総合展等への出展 (2)広域防災PR用パンフレットの作成		(1)震災対策技術展で講演(6月)、防犯防災総合展で出展及び講演(6月)	A	(1)展示会への出展等により、広域防災局の取組みを広くPRできた。	-	継続 (H26)
	予算額		1,840千円				
5 防災庁機能の検討	(1)防災庁が有すべき機能に関する検討		(1)第1回有識者懇話会の開催(7/27)	B	(1)今後、年度内に計3回の有識者懇話会を予定しており、年度末に検討結果を公表できる見込みである。	継続実施	新規
	予算額		2,000千円				

施策運営目標2 (重点方針)	「KANSAI」を世界に売り込む	評価区分	④・最終
-------------------	------------------	------	------

目標策定			評価			今後の対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 外国人観光客の関西への誘客を促進する広域ツアーの確立 ・新広域観光周遊ルート誘客促進事業において、旅行代理店等に対して具体的に旅行商品の造成につなげるため、現地旅行博に出展し、積極的にPRを行う。 ・美の伝説ルート誘客促進事業において、「美の伝説ルート」を日本を代表する魅力ある周遊ルートとしてアピールする。	新広域観光周遊ルート誘客促進事業において現地旅行博に出展する。 ・旅行博への出展(2カ国) 美の伝説ルート誘客促進事業において、対象市場に向けたプロモーション等を行う。 ・海外の旅行業者等と連携した関西観光キャンペーンの実施(1カ国) ・レンタカーを使ったファミトリップの実施(2回) ・プロモーションツールの作成(1点) ・外国人観光客へのマナー啓発コンテンツの作成(1点) 予算額 14,000千円	・訪問外国人客数について2020年までに年間800万人を目指す。 (今年度、目標数値の見直しを予定) ↓ 【H28.8見直し後】 ・訪問外国人客数について2020年までに年間1,800万人を目指す。	新広域観光周遊ルート誘客促進事業において現地旅行博に出展する。 ・インドネシアの旅行博に出展予定。 美の伝説ルート誘客促進事業において、対象市場に向けたプロモーション等を行う。 ・タイの旅行博に出展予定。 ・レンタカーを使ったファミトリップを実施予定。 ・プロモーションツールを作成中。 ・外国人観光客へのマナー啓発コンテンツを作成中。	C	①新広域観光周遊ルート誘客促進事業における現地旅行博への出展は、美の伝説ルート誘客促進事業の国の支援額の減額と決定時期の遅れにより、当初予定していたタイ旅行博出展を取りやめた。 ②美の伝説ルート誘客促進事業の関西観光キャンペーンは、国の支援額の減額と決定時期の遅れにより、当初予定していた関西観光キャンペーンを取りやめ、旅行博出展に変更した。	継続実施	継続 (H27) 一部 新規
2 「KANSAI」の知名度向上を図る、世界への魅力発信 ・「KANSAI国際観光YEAR」事業において、道事業の2016年のテーマ「関西のスポーツ観光」をアピールする。 ・訪日観光客の増加が期待できるアジア等に対して海外観光プロモーションを実施する。	「KANSAI国際観光YEAR」事業を実施する。 ・PRイベントの実施(2回) アジア等で観光プロモーションを実施する。 ・海外トッププロモーションの実施(構成府県市単独プロモーションでの紹介を含む)(5回) 予算額 17,607千円	・訪問外国人客数について2020年までに年間800万人を目指す。 (今年度、目標数値の見直しを予定) ↓ 【H28.8見直し後】 ・訪問外国人客数について2020年までに年間1,800万人を目指す。	「KANSAI国際観光YEAR」事業を実施する。 ・10/14-17ワールドトレイルズカンファレンス鳥取大会共催 ・10/19-20スポーツ・文化・ワールド・フォーラム 京都会場での展示PR アジア等で観光プロモーションを実施する。 ・8/30-9/2台湾・香港トッププロモーション ・4/16-22和歌山県プロモーションでのPR ・9/1-8大阪市プロモーションでのPR	B	①計画どおりに推進中。	継続実施	継続 (H26)

施策運営目標3 (重点方針)	新しいインバウンド市場への対応	評価区分	① 中間・最終
-------------------	-----------------	------	---------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に に向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 新たな誘客とリピーター化の促進 ・関西の見所をタイムリーに発信し、新たな観光需要の創出を図るとともに、ビザ発給要件の緩和等により訪日旅行が増加傾向にあるアジア等の市場に対して積極的に取り組む。	関西観光WEBにおいて、関西の魅力を発信する。 ・関西観光WEBにおけるスポーツ観光、食文化、マンガアニメ、世界遺産等情報の発信(100件) アジア等で海外トッププロモーションを実施する。 ・海外トッププロモーションでの関西の魅力PR実施(構成府県市単独プロモーションでの紹介を含む)(5回) 予算額 2,000千円	・国際観光を通じて人と人のつながりを大切にしたい関西ファンを多くつくることができる。	関西観光WEBにおいて、関西の魅力を発信する。 ・関西観光WEBにおけるスポーツ観光、食文化、マンガアニメ、世界遺産等情報等、現在延べ約280件を発信中。 アジア等で観光プロモーションを実施する。 ・8/30-9/2台湾・香港トッププロモーション ・4/16-22和歌山県プロモーションでのPR ・9/1-8大阪市プロモーションでのPR	B	①計画どおりに推進中。	継続実施	継続 (H26)

施策運営目標4 (重点方針)	的確なマーケティング戦略による誘客	評価区分	①・最終
-------------------	-------------------	------	------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)		
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)				
1 国・地域ごとの特性を把握した 情報発信 ・関西への誘客に大きな貢献の ある者等を「KANSAI観光大使」 に任命することにより、対象とな る国・地域の特性を把握する。 ・関西観光WEB及びSNSによる 情報発信を行う。	「KANSAI観光大使」を新たに任命する。 ・KANSAI観光大使の新規任命(1名) SNSによる情報発信を行う。 ・SNSによる情報発信(30回) <table border="1" data-bbox="367 563 801 598"> <tr> <td data-bbox="367 563 517 598">予算額</td> <td data-bbox="517 563 801 598">490千円</td> </tr> </table>	予算額	490千円	・国際観光を通じて人と人のつながりを 大切にしたい関西ファンを多くつくること ができる。	「KANSAI観光大使」を新たに任命 する。 ・8/30、2名の方を新規任命(台湾) SNSによる情報発信を行う。 ・SNSによる情報発信中。9/末ま だに95件の情報を発信	B	①計画どおりに推進中。	継続実施	継続 (H26)
予算額	490千円								

施策運営目標5 (重点方針)		安心して楽しめるインフラ整備の充実		評価区分	①中間・最終		
目標策定				評価		今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 外国人観光客の利便性とおもてなしの向上 ・外国人観光客が安心して関西観光が楽しめるよう、通訳案内士登録に関する業務を行うとともに、広域的に対応できる通訳案内士の人材育成を図る。	通訳案内士のスキルアップ研修を行う。 ・スキルアップ研修の実施(100人)	・国際観光を通じて人と人のつながりを大切にしたい関西ファンを多くつくることができる。	通訳案内士のスキルアップ研修を行う。 ・スキルアップ研修を実施予定	B	①計画どおりに推進中。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	2,452千円					

施策運営目標6 (重点方針)	推進体制の充実	評価区分	①・最終
-------------------	---------	------	------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 関係機関・団体、経済団体等と連携した取組の推進 ・経済界等とともに設立した関西国際観光推進本部の事業を推進し、官民連携での関西PRを進める。	関西国際観光推進本部による官民連携の取組を推進する。 ・KANSAI国際観光指針・行動計画の策定	・訪問外国人客数について2020年までに年間800万人を目指す。 (今年度、目標数値の見直しを予定) ↓ 【H28.8見直し後】 ・訪問外国人客数について2020年までに年間1,800万人を目指す。	関西国際観光推進本部による官民連携の取組を推進する。 ・KANSAI国際観光指針を同推進本部が策定(9/14)	B	①KANSAI国際観光指針の策定については達成済み。 ②官民連携の取組推進については、計画通りに推進中。	継続実施	新規
	予算額	1,000千円					

施策運営目標7 (重点方針)	関西文化の振興と内外への魅力発信	評価区分	①・最終
-------------------	------------------	------	------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に に向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 先進的取組等の共有化・汎用化を通して、関西文化のハーマイナイズアップを行う。	アーティスト・イン・レジデンスを活用した地域の魅力や先進的な取組を語り、学びあう国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス」を開催する。 ・平成28年10月頃(1回)	先進的取組を共有化・汎用化することにより関西文化全体のハーマイナイズアップにつなげることができるとともに、関西の先進的取組をアピールすることができる。	国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス」を開催予定。 (平成28年10月22日(土)、滋賀県立陶芸の森)	B	シンポジウムを開催し、関西文化のハーマイナイズアップを行い、滋賀県の先進的取組をアピールする見込み。	継続実施	継続 (H27)
2 「関西文化」の認知度とブランド力向上に向けた取組とともに、豊富な文化資源のプロデュースによる効果的な魅力発信を行う。	関西各府県の「祭り情報」を広域で一元的にデータベース化し、英語対応も含め内外に発信してきた「関西祭.com」を、東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向け多言語対応を進める。 ・フランス語対応	地域文化の結晶である関西の祭りをはじめ、関西の文化を国内外に発信することができる。	フランス語に対応し、平成28年9月23日から公開済	A	サイトの多言語化に取り組み、関西文化を国内外に発信している。	28年度最終年	継続 (H26)
	予算額 2,620千円						
	予算額 1,140千円						

施策運営目標8 (重点方針)	連携交流による関西文化の一層の向上	評価区分	①・最終
-------------------	-------------------	------	------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 構成団体間や官民の連携交流を通じて、観光振興など、他分野への波及も視野に入れた関西文化の一層の向上を図る。	「日本遺産」をテーマに観光分野・関係団体等とも連携し、フォーラムの開催等により関西全域での観光文化振興につなげる。 ・フォーラム開催(平成28年10月頃:1回) ・歴史文化遺産リーフレットの多言語対応(中国語(繁体字):5千部) ・関西の日本遺産webサイトの制作 ・関西の世界遺産等のパネル作成・活用	関西が連携して一体的に情報発信を行うことで、世界遺産や日本遺産登録を目指すなど関西としての気運の盛り上げにつなげる。 また、歴史文化遺産リーフレットの多言語対応など、広く無形文化遺産や記憶遺産、ジオパーク、世界遺産暫定リスト登録遺産等も含めて一体的に情報発信を行う。	・歴史遺産文化フォーラム「関西から日本遺産を世界へ」を開催予定。 (平成28年10月23日(日)、奈良春日野国際フォーラム堂) ・歴史文化遺産リーフレットの日本語、中国語(繁体字)併記版を作成中。 ・関西の日本遺産ウェブサイトの制作に向け準備中。 ・関西の世界遺産等のパネルを作成中、国際会議等でPRのため活用予定。	B	歴史街道推進協議会等と連携したフォーラムの開催やリーフレット、パネル等を用いて、一体的に情報発信を行い、関西文化の一層の向上につなげる見込み。	継続実施	継続 (H26) 一部 新規
	予算額 3,700千円						

施策運営目標9 (重点方針)		関西文化の次世代継承と人材育成		評価区分	①・最終		
目標策定				評価		今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に に向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1	<p>関西の文化力を支える人材の実践的な育成を行う。</p> <p>東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向けた関西オリジナル企画等の公募に基づいた事業を実施し、若手人材の実践的な育成を行う。</p> <p>・文化プログラムの事業企画案の実施(1回)</p>	<p>関西で活躍する若手人材の育成につなげることができる</p>	<p>27年度の企画案を事業化し、関西の「食文化」PR映像を制作中。</p>	B	<p>公募した企画案の事業化により、若手人材の実践的な育成に取り組む見込み。</p>	継続実施	継続 (H27)
	<p>予算額</p>	1,500千円					

施策運営目標10 (重点方針)	情報発信・連携交流支援・人づくりを支える環境(プラットフォーム)づくり	評価区分	①中間・最終
----------------------------------	--------------------------------------------	-------------	---------------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 関西全体のブランド価値を高め、観光との連携による広域的な誘客効果を地域振興に確実に波及させるため、行政や様々な分野の専門家、関係機関等の協働により関西文化の振興策を検討・提案するプラットフォームづくりを進める。	関西文化の内外への発信を強化し、関西文化を一体となって振興するために、様々な分野の専門家等から幅広い知見を求め今後の戦略を検討するとともに、さらなる行政等間の連携交流を図るため、「はなやか関西・文化戦略会議」を開催する。 ・はなやか関西・文化戦略会議(2回)	各府県市の先進的取組等の共有化・汎用化を通して、関西文化のハーモナイズアップにつなげることができる。 また、東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向け、文化プログラム等について関西での取組を明確化することができる。	2020年東京オリンピック・パラリンピック等の開催に向けた関西文化の発信強化をテーマに、様々な分野の専門家10名による「はなやか関西・文化戦略会議」を開催(平成28年9月5日)	B	はなやか関西・文化戦略会議による、東京オリンピック・パラリンピック等に向けた関西文化の振興策の検討を受け、29年度以降に取り組む見込み。	継続実施	継続 (H26)
	予算額 640千円						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域スポーツ担当委員 井戸 敏三

基本目標 (目指すべき将来像)	◆国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西 ○世界に誇る観光資源や歴史文化遺産を活かし、さらに魅力を高めるとともに積極的に情報発信し、国内だけでなく海外との地域間競争に打ち勝つ国際観光・文化圏“関西”を目指す。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府縣市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をよりいっそう進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	「関西広域スポーツ振興ビジョン」の推進	評価区分	中間・最終
-------------------	---------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事 業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 「関西広域スポーツ振興ビジョン」に基づき、具体的事業を検討する。	ビジョン推進会議において、施策運営目標の実現に向けた事業を企画立案(ビジョン推進会議) ・開催回数: 4回 ・メンバー: 構成府縣市担当課長(アドバイザーからの意見聴取) ・開催回数: 1回程度 ・メンバー: 「関西広域スポーツ振興ビジョン」策定に関わったアドバイザー2名を想定 予算額 619千円	○構成府縣市が一体となって取り組む具体的事業を企画立案し、平成29年度以降の事業実施につなげる。	ビジョン推進会議を3回開催した。 ・第1回: 5月17日(火) 兵庫県立ひょうご女性交流館 ・第2回: 7月12日(火) 東大阪市花園ラグビー場 ・第3回: 9月21日(水) 市立吹田サッカースタジアム ・第4回: 2月開催予定 アドバイザーからの意見聴取については、年度内に実施予定である。	B	ビジョン推進会議を開催し、29年度以降に実施する具体的事業を検討している。	継続実施	新規

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域スポーツ担当委員 井戸 敏三

施策運営目標2 (重点方針)	関西における広域的、国際的スポーツ大会の招致及び開催支援	評価区分	中間・最終
-------------------	------------------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事 業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 関西ワールドマスターズゲームズ2021や関西マスターズスポーツフェスティバルなどの開催に向けた広報活動等の事業を検討する。	ビジョン推進会議において、施策運営目標の実現に向けた事業を企画立案	○構成府県市が一体となって取り組む具体的事業を企画立案し、平成29年度以降の事業実施につなげる。	ビジョン推進会議をこれまで計3回実施し、具体的事業の企画立案を進めている。	B	ビジョン推進会議において、関西ワールドマスターズゲームズ2021等の開催に向けた、広報活動等の具体的な事業案を検討している。	継続実施	新規
	予算額	千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域スポーツ担当委員 井戸 敏三

施策運営目標3 (重点方針)		国際スポーツ大会キャンプ地等の誘致支援			評価区分	中間・最終	
目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事 業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 東京オリンピック・パラリンピ ック、ラグビーワールドカップ2019 など国際スポーツ大会の事前 キャンプ地等の誘致支援のため の事業を検討する。	ビジョン推進会議において、施策運営 目標の実現に向けた事業を企画立案	○構成府県市が一体となって取り組 む具体的事業を企画立案し、平成29 年度の事業実施につなげる。	ビジョン推進会議をこれまで計3回実施し、具体的事業 の企画立案を進めている。	B	ビジョン推進会議において、東京オリ ンピック・パラリンピックのキャンプ地等 の誘致に向けた具体的な支援策を検 討している。	継続実施	新規
	予算額	千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: ジオパーク推進担当委員 平井 伸治

基本目標 (目指すべき将来像)	◆国内外にわたる観光・文化の交流拠点関西
	○世界に誇る観光資源や歴史文化遺産を活かし、さらに魅力を高めるとともに積極的に情報を発信し、国内だけでなく海外との地域間競争に打ち勝つ国際観光・文化圏“関西”を目指す。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をよりいっそう進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	「KANSAI」を世界に売り込む	評価区分	中間・最終
-------------------	------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 (1)ジオパークの魅力を活用した 広域観光振興 ・ジオパークの認知度向上を図 るため、海外トッププロモーション や国内外におけるキャンペーン 等によるPR活動を行う。 ・関西にある優れた地形・景観 などの観光資源をテーマに、関 西が一つになって広域的な観光 誘客を推進する。	(1)海外トッププロモーションの際に、PRブースを設置し、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークや南紀熊野ジオパークをはじめ、関西の優れた景観等をPRする。 (2)外国人観光客向けガイドブック等で、山陰海岸ユネスコ世界ジオパークや南紀熊野ジオパークなど、関西の優れた地質・景観を巡る旅を「地質の道」としてPRする。	・観光客の増大による地域の活性化 ・府県を超えての経済・観光交流の促進 ・地域の魅力や誇りの再発見 ・海外に向けた情報発信	①関西で開催される国際会議等で、ジオパークをはじめとする関西の優れた景観等をPR ②外国人観光客向けガイドブックを作成中(12月発行予定)	B	①G7神戸保健大臣会合フェア(9/8～11、神戸市)で、パンフレット等を配布。 ②第6回ワールドトレイルズカンファレンス鳥取大会(10/14～17)で、DVD放映、パネル展示、パンフレット配布の予定。 ③外国人向けガイドブックを作成中。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	1,000千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興担当委員 松井 一郎

<p>基本目標 (目指すべき将来像)</p>	<p>◆世界に開かれた経済拠点を有する関西 ○グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、関西の各地域の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点「関西」を目指す。</p>
<p>平成27年度 監査委員からの 指摘事項</p>	<p>○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府县市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。</p>

<p>施策運営目標1 (重点方針)</p>	<p>世界の成長産業をリードするイノベーション創出環境・機能の強化</p>	<p>評価区分</p>	<p>Ⓜ・最終</p>
---------------------------	---------------------------------------	-------------	-------------

目標策定		評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)		
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価			アウトカム (評価の理由)	
1	<p>○「グリーン・イノベーション分野やライフ・イノベーション分野などの関西が強みを持つ成長産業分野において、各拠点間ネットワークの形成等を通じ、ポテンシャルを最大限発揮するとともに、特区制度の活用など既存の枠組みを超えた取組を実現し、国際的な研究開発拠点として、世界のセンター機能を果たす。</p>	<p>○「メディカル ジャパン」を活用した関西のポテンシャルの発信 「メディカル ジャパン」にブース出展等を行い、関西の産業ポテンシャルや先進的・革新的な研究等の紹介、医療機器分野への新規参入に向けた個別相談、大学等の研究成果と企業のマッチングを目的としたセミナーなど、ビジョンに掲げる戦略に基づく取組を実施する。</p>	<p>○国内外から関西への人(企業)、もの(技術)、情報等の流入が促進され、関西におけるビジネスチャンスの創出・拡大につながる。</p>	<p>○「メディカル ジャパン2017大阪」でのブース出展、セミナー実施等に向け準備中。</p>	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H26)
	<p>○医療機器分野への参入に向けた医療機器相談の実施 ものづくり企業の医療機器分野への参入にかかる医薬品医療機器等法などの取り扱いに加え、知財や基盤技術、生産・管理、販売戦略など、事業化に向けた様々なステージにおける相談事業を実施する。 また、総合的な相談・支援体制を有する民間等に委託することで、より効果的に事業を実施する。</p>	<p>○薬事関連の取扱いに関する相談対応など、医療機器分野への参入促進に向けた取組により、広域連合域内のライフサイエンス分野のイノベーションにつながる。</p>	<p>○薬事関連の取扱いに関する相談対応など、医療機器分野への参入促進に向けた取組により、広域連合域内のライフサイエンス分野のイノベーションにつながる。</p>	<p>○医療機器相談事業を実施中。</p>	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H25)
	<p>○「次世代医療システム産業化フォーラム」企業説明会の開催 大阪商工会議所が実施している「次世代医療システム産業化フォーラム」について、広域連合域内企業の活用を促進するため、各府県市の要望のもとに企業向け説明会を開催する。</p>			<p>○「次世代医療システム産業化フォーラム」の企業向け説明会」の開催に向け調整中。</p>	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H25)
	<p>○「グリーン・イノベーション研究成果企業化促進フォーラム」の実施 関西が高い産業ポテンシャルを有するグリーン分野において、実用化を目指す大学・研究機関等の研究成果を域内の企業に広く発信し、産学連携による製品開発等を通じて産業振興を図る。</p>		<p>○シーズの企業化促進などのグリーン分野への参入促進に向けた取組により、先進的なシーズや研究成果がいち早く実用化し、広域連合域内のグリーン分野のイノベーションにつながる。</p>	<p>○「グリーン・イノベーション研究成果企業化促進フォーラム」(12月予定)開催に向け準備中。</p>	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H27)
	<p>○新エネルギー産業分野への参入に向けた講座の開催 中小企業が、今後の成長が見込まれる水素・燃料電池・蓄電池などのグリーン分野に円滑に参入できるよう、先導的な活動を実施している企業の開発者等を講師に招き、市場・研究開発動向、課題・展望等に関する講演会を実施する。</p>			<p>○「新エネルギー産業分野への参入に向けた講演会」を実施済。(8月3日)</p>	A	グリーン分野への参入を促進した。	実施済	継続 (H27)
	<p>○「バッテリー戦略研究センター」の活用促進 バッテリー産業の国際競争力強化を目指す大阪府の「バッテリー戦略研究センター」の実証コーディネート機能や、分野参入に必要となる機関・施設の紹介機能について、広域連合域内企業の活用を促進するため、周知・広報を行う。</p>			<p>○バッテリー戦略研究センターのPRを実施中。</p>	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H25)
	<p>予算額</p>	29,106千円						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興担当委員 松井 一郎

基本目標 (目指すべき将来像)	◆世界に開かれた経済拠点を有する関西 ○グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、関西の各地域の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点“関西”を目指す。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標2 (重点方針)	高付加価値化による中堅・中小企業等の国際競争力の強化	評価区分	中間・最終
-------------------	----------------------------	------	-------

目標策定		評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)		
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価			アウトカム (評価の理由)	
1	○様々な業種やステージにある中堅・中小企業等に対し、広域による技術支援や知的資産経営の導入支援等により経営基盤を強化し、成長産業への参入促進を促すとともに、各地域の一際光る技術や人材等経営資源を相互補完し強化するため、府県域を越えたマッチングなど支援機能の整備を通じて、成長を支援する。	○「海外企業等との経済交流事業」の実施 海外から企業等を招聘し、広域連合域内企業との商談会及び産業施設の視察・意見交換を実施することにより、相互に経済交流の促進を図る。	○海外企業等との商談会や広域的なビジネスマッチング・商談会の実施により、広域連合域内企業のビジネスチャンスの拡大につながる。	○商談会の実施に向け、準備中。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	新規
		○府県市主催商談会等の相互活用 構成府県市が実施する大企業とのビジネスマッチング事業について、広域連合枠を設け、広域的なマッチングを実施する。また、構成府県市が主催する商談会について、他の構成府県市からの参加を促進するため、周知・広報を実施する。		○「大阪ガス㈱との技術マッチング商談会」や国際フロンティア産業メッセ等について、域内企業に参加の呼びかけを実施済。 今後も構成府県市が主催する商談会等について、周知・広報を実施予定。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H24)
		○公設試の連携・情報の共同発信 広域連合域内の公設試の共同ポータルサイト「関西ラボねっと」により、各公設試の保有機器や技術シーズ等の一元的な情報発信を行う。 域内企業の利便性向上を図るため、各公設試における機器利用等に関する割増料金の解消を継続するとともに、各公設試の相談企業に対して、必要に応じて他の公設試の設備や技術等の紹介を行う。 企業とのネットワーク形成、企業と各公設試の技術シーズとのマッチングを促進するとともに、公設試間の人材交流及び研究員の知識・技術の向上を図るため、共同で研究会を実施する。	○広域連合域内公設試の広域的な連携により、各公設試の情報が共有・集約される等、企業の利便性が向上するとともに、企業ニーズに即した対応が可能となる。また、海外の企業支援拠点を共同運用することで、域内企業のビジネスチャンスの拡大につながる。	○共同ポータルサイト「関西ラボねっと」を運営し、情報発信している。 「公設試交流セミナー」(10月21日)開催に向け準備中。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H24)
		○ビジネスサポートデスクの共同運用 大阪府が設置する海外の企業支援拠点(ビジネスサポートデスク)について、全構成府県市での共同運用を実施し、広域連合域内企業等の海外展開を支援する。		○ビジネスサポートデスクの共同運用を実施し、域内企業等の海外展開を支援している。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H24)
		○府県市が実施する新商品調達認定制度の広報連携 構成府県市の認定制度による認定事業者等の情報について、広域連合域内で開催される展示会にブース出展し一体的にPRするとともに、パンフレットや広域連合のホームページへの掲載等により広く発信する。	○認定事業者の知名度の向上を図ることにより、新商品の販路開拓につながる。	○認定事業者の情報をまとめたPR冊子を作成済(8月)。 冊子を活用し、PRを実施中。 「びわ湖環境ビジネスメッセ」(10月19～21日)へのブース出展に向け準備中。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H24)
		○スモールビジネスモデル共有センターによる情報発信 域内におけるスモールビジネスの優れた事例を収集し、域内企業(及び起業検討者)や市町村・商工会議所等の支援機関に対し、ホームページを活用して情報発信する。	○スモールビジネスに関する優れたモデルを積極的に発信し、中小企業の創出・強化を図ることで、地域経済の発展につながる。	○域内のスモールビジネスの優れた事例を収集し情報発信している。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	新規
	予算額	2,745千円						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興担当委員 松井 一郎

基本目標 (目指すべき将来像)	◆世界に開かれた経済拠点を有する関西 ○グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、関西の各地域の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点「関西」を目指す。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府县市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標3 (重点方針)	「関西ブランド」の確立による地域経済の戦略的活性化	評価区分	中間・最終
-------------------	---------------------------	------	-------

目標策定		評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)		
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価			アウトカム (評価の理由)	
1	○関西のポテンシャルを活かして地域全体の魅力を高め、アジアを代表する集客・交流エリアとして多くの人を呼び込むとともに、域内企業の海外への市場展開を拡大する必要がある。ものづくりやコンテンツ分野への取組だけでなく、例えば、文化については、経済成長の一翼を担う新たなイノベーションを起こすための資源として積極的に活用し、戦略的な取組やプロモーションを展開することで、アジア地域を主たるターゲットに「関西ブランド」の確立を目指すとともに、ブランドの活用を通じた地域の活性化を推進する。	○海外トッププロモーションの実施 広域観光・文化・スポーツ振興局が実施するトッププロモーションと連携し、アジアを中心に関西の産業ポテンシャルの情報を発信する。	○関西広域で一体的かつ効果的にプロモーションを行うことで、広域連合域外や海外における関西の認知度・イメージの向上につながる。	○広域観光・文化・スポーツ振興局が実施するトッププロモーション事業と連携し、産業プロモーションを実施済。(8月30日～9月2日)	A	産業プロモーションを実施し、関西の認知度・イメージの向上につなげた。	実施済	新規
		○国内プロモーションの実施 国内の大規模展示商談会に出展し、関西の優れた工業製品について、効率的・効果的にプロモーションを実施する。		○「東京ギフトショー」(2月予定)でのブース出展に向け準備中。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	新規
		○農商工連携の促進 構成府縣市が主催する商工業者と農林水産業者のマッチング事業に連携し、広域連合域内企業が府縣市域を越えて参加できる取組を推進する。	○農商工連携の促進を広域的に実施することにより、広域連合域内企業の販路・ビジネスチャンスの拡大につながる。	○各府県が実施する、商工業者と農林水産業者のマッチング事業等について、広域連合域内の商工業者が参画できる事業を調整中。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H24)
	予算額	5,875千円						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興担当委員 松井 一郎

基本目標 (目指すべき将来像)	◆世界に開かれた経済拠点を有する関西 ○グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、関西の各地域の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点“関西”を目指す。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府县市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標4 (重点方針)	企業の競争力を支える高度人材の確保・育成	評価区分	中間・最終
-------------------	----------------------	------	-------

目標策定		評価				今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 ○グローバルな産業競争力の向上に向けて、大学や産業界の協力の下、優秀な留学生の受け入れと活躍の場を提供するとともに、国内の学生を中心とした人材育成を図ることにより、市場ニーズに対応した高度産業人材の確保・育成とともに受け皿の確保を推進する。	○「高度産業人材に関する関西広域産学官連絡会議」の開催 平成25年度に設置した、関西広域連合と産業界、広域連合域内に存する大学コンソーシアム・大学等関係機関による連絡会議を引き続き開催し、高度産業人材の確保・育成に関して、情報交換、意見交換を行う。 予 算 額 293千円	○連絡会議を開催し、産学官による情報交換・意見交換を行うことにより、高度産業人材の確保・育成の促進につながる。	○「高度産業人材に関する関西広域産学官連絡会議」開催済。(9月) 連携事業として、課題解決型インターンシップ事例集の新たな事例を収集中。	B	概ね計画どおりに進捗している。	継続実施	継続 (H25)

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興(農林水産部)担当 仁坂 吉伸

基本目標 (目指すべき将来像)	<p>◆歴史と伝統ある関西の食文化を支える農林水産業</p> <p>○高品質で多様な農林水産物の域内外への供給を強化・拡大するとともに、食文化の素晴らしさを国内のみならず海外に発信し、需要につなげることで、歴史と伝統ある関西の食文化を積極的に支える農林水産業を目指す。</p>
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	<p>○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。</p> <p>○農林水産業の振興には、より効果的なPRが重要であるのでより一層取組を進めていただきたい。なお、今後は、連合の農産物等の消費がより進むための様々なアイデアを検討していくことが望ましい。</p>

施策運営目標1 (重点方針)	地産地消運動の推進による域内消費拡大	評価区分	中間・最終
---------------------------	--------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 <ul style="list-style-type: none"> ①「おいしい！KANSAI応援企業」の登録 ②学校への特産農林水産物利用促進のための啓発 ③直売所の交流促進 	<ul style="list-style-type: none"> ①地産地消運動の趣旨に賛同する企業等を「おいしい！KANSAI応援企業」として登録し、社員食堂や職員食堂でのエリア内農林水産物を使った料理の提供を通じて消費拡大を図る。 ②学校給食向けの食材を直売所から直接供給できるシステムの構築や、学校栄養士等を対象とした関西広域連合給食試食会、府県域を越えた出前授業を開催する。 ③直売所の集客増加を図るため、既存観光アプリを活用した直売所ナビの作成や、直売所間交流を促進するためのマッチングサイトの活用を推進する。 <p style="text-align: right;">予算額 7,636千円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生産者と消費者の相互理解を深め、エリア内農林水産物の域内消費拡大を進めることで、域内の農林水産業の振興・活性化につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①応援企業については関西経済連合会等の協力のもと、個別に企業を訪問し、これまで50施設を登録。 ②構成府県市の学校栄養士会を対象とした関西広域連合給食試食会を開催(8回、延べ223名)、特産農林水産物の利用啓発も併せて実施。 ③直売所交流については、マッチングサイトへの登録を推進するとともに直売所間交流を実施。また、同サイトを学校給食関係者が利用できるよう改良中。さらに、直売所ナビについては、プロポーザル方式で業者決定し、現在、作成中。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ①登録が着実に拡大(40→50)。今後、社員食堂やメニューをはじめ、企業のCSR活動、社風、社員の声を関西広域連合ホームページに掲載し、広く情報発信することで登録企業の拡大を図っていく。 ②引き続き、給食試食会や特産農林水産物の利用啓発を行うとともに、府県域を越えた出前授業を実施する。 ③直売所交流を随時開催するとともに、直売所ナビへの登録を推進していく。 	継続実施	継続 (H26)

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興(農林水産部)担当 仁坂 吉伸

施策運営目標2 (重点方針)	食文化の海外発信による需要拡大	評価区分	④・最終
-------------------	-----------------	------	------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 ○食文化等の国内外への情報発信	○関西の農林水産物・加工品及び食文化の情報を、リーフレット・ホームページを通じて、国内外へ情報発信する。 予算額 260千円	・関西の食・食文化を海外へ発信することで、新たな需要の拡大につながる。	・「関西の食リーフレット」の海外で配布、「関西の食文化ホームページ」を通じて情報発信。	B	・引き続き、関西の食・食文化を海外へ発信していく。	継続実施	継続 (H26)

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興(農林水産部)担当 仁坂 吉伸

施策運営目標3 (重点方針)	国内外への農林水産物の販路拡大	評価区分	中間・最終
-------------------	-----------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 ①国内外への販路拡大につな げる効果的な情報発信 ②輸出に向けた機運の醸成	①広域観光・文化振興局が実施する関西観光物 産展などのPRイベントで、「関西の食リーフレッ ト」を配付する。 ②事業者向け海外輸出セミナーを開催する。	・域内事業者の輸出に向けての機運醸 成を図るとともに、関西の食に関する効 果的な情報発信を行うことにより、国内 外での販路拡大、海外への輸出振興に つながる。	①構成府県市が出展した香港で の食品見本市(FOOD EXPO)等 において、「関西の食リーフレッ ト」を配布。 ②事業者向け海外輸出セミナー (平成29年1月予定)開催に向け調 整中。	B	・構成府県市とセミナー開催に向け 調整中であり、1月開催の予定であ る。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	269千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域産業振興(農林水産部)担当 仁坂 吉伸

施策運営目標4 (重点方針)	農林水産業を担う人材の育成・確保	評価区分	中間・最終
-------------------	------------------	------	-------

達成目標 (施策運営目標の実現に向けた取組み)		アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)	今後の 対応方針	区分 (開始年度)
1	○関西の就農情報の発信	①構成府県市の就農情報を掲載した「関西広域連合就農ガイド」を作成し、広域連合エリア外において各府県市が実施する就農相談会で配布する。 ②広域連合ホームページ内に構成府県市の情報を集約した「就農促進サイト」を開設し、広域連合エリア内の就農につなげる。	・広域連合エリア外に向けての情報を発信することで、広域連合エリア内への就農につなげる。	①「関西広域連合 就農ガイド」を作成。 ②広域連合ホームページ内に「関西広域連合就農促進サイト」を開設。	B	①「関西広域連合 就農ガイド」を9月以降に連合エリア外で開催される就農相談会等で、構成府県市により就農希望者へ配布予定である。 ②広域連合ホームページへ「就農促進サイト」を開設し、情報発信をしている。	継続実施	新規 (H28)
		予算額	千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域医療担当委員 飯泉 嘉門

基本目標 (目指すべき将来像)	◆医療における安全・安心ネットワークが確立された関西
	○関西の各地域の医療資源の有機的な連携により、特にドクターヘリなど救急医療面で多重的なセーフティーネットを構築し、安全・安心の医療圏“関西”を目指す
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府县市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。 ○ドクターヘリの運航は、関西広域連合に大きな役割が期待され、広域的な救急医療、災害医療にとって不可欠な事業であるため、今後もより一層、安定的な運航の確保に取り組んでいただきたい。 ※関連項目【施策運営目標2-1】:達成目標に反映

施策運営目標1 (重点方針)	『関西広域救急医療連携計画』の推進	評価区分	中間・最終
-------------------	-------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 「関西広域救急医療連携計画」の推進 ・連携計画を推進するとともに、「関西広域救急医療連携計画推進委員会」を開催し、計画の進捗管理を行う。	(1)関西広域救急医療連携計画推進委員会 ・開催回数:3回(予定) ・委員:学識経験者(医療分野の有識者等)	連携計画の着実な推進を図るとともに、新たな取組についての調査・検討を行うことにより、広域救急医療連携の充実が図られ、関西全体に「安全・安心の輪」が広がることが期待される。	平成28年度第1回関西広域救急医療連携計画推進委員会を開催(H28.9)し、広域医療局における取組等を報告するとともに、次期「広域計画(中間案)」及び現行「関西広域救急医療連携計画」の進捗状況について協議を行った。	B	連携計画を推進するとともに、「関西広域救急医療連携計画推進委員会」を開催(H28.9)し、計画の進捗管理を行った。また、次期「関西広域救急医療連携計画」について議論するため、平成28年度内にも再度、当該委員会を開催する予定である。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	968千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域医療担当委員 飯泉 嘉門

施策運営目標2 (重点方針)	広域救急医療体制の充実	評価区分	中間・最終
-------------------	-------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)	
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)			
1	<p>ドクターヘリによる「30分以内での救急搬送体制」の充実・強化・広域連合に隣接する県のドクターヘリとの相互応援体制の検討・整備</p> <p>・ドクターヘリの普及・啓発活動の実施</p> <p>・ドクターヘリ関係予算の確保を国に対し提案</p>	<p>(1)「3府県ドクターヘリ」及び「兵庫県ドクターヘリ」に対する支援</p> <p>・「3府県ドクターヘリ」及び「兵庫県ドクターヘリ」運航事業への補助を行う。</p> <p>・運航調整委員会への参画を行う。</p> <p>(2)「大阪府ドクターヘリ」、「徳島県ドクターヘリ」および「京滋ドクターヘリ」の運航事業の実施</p> <p>(3)ドクターヘリを活用した訓練の実施</p> <p>(4)ドクターヘリの「普及・啓発イベント」の実施</p> <p>・ドクターヘリの愛称を活用した情報発信を行うなど、普及・啓発を図る。</p> <p>(5)「ドクターヘリ関係者会議」を開催し、ドクターヘリに関する諸課題の検討を行う。</p> <p>・開催回数: 2回(予定)</p> <p>・委員: 医療分野の有識者等 各基地病院の医師および行政担当者</p> <p>(6) 関西広域連合が行う平成29年度国の予算編成等に対する提案により「ドクターヘリ関連予算の確保」の提案を行う。</p>	<p>ドクターヘリ搭乗人材の育成や、連合管内ドクターヘリの一体的な運航による相互応援により、広域救急医療体制の充実が図られ、「救命率の向上」や「後遺症の軽減」につながる。また、共同運航により、経費の削減も見込まれる。</p>	<p>・3府県ドクヘリ、大阪ドクヘリ、徳島県ドクヘリ、兵庫県ドクヘリ及び京滋ドクヘリ事業の実施</p> <p>・和歌山県ドクヘリと三重県ドクヘリの相互応援開始(H28.4)</p> <p>・連合により鳥取県ドクヘリの導入することが決定(H29.3末までに導入予定)</p> <p>・第6回ドクターヘリ関係者会議の開催(H28.7)</p> <p>・G7神戸保健大臣会合フェアにおいてドクヘリ実機の展示を行う等広域医療局の取り組みを広く発信(H28.9)</p> <p>・京滋ドクヘリ、徳島県ドクヘリなどがドクヘリ見学会を開催(随時)</p> <p>・平成29年度国の予算編成等に対する提案により「ドクターヘリ関連予算の確保」の提案(H28.6)を行った。H28.11にも引き続き提案予定。</p>	B	<p>連合管内のドクヘリは事故もなく運航回数を伸ばしており、事業は順調である。また、鳥取県ドクヘリを連合で導入することが決定するなど連合管内7機体制による平時・災害時の広域医療搬送体制の拡充に向け取り組むこととなった。さらにG7神戸保健大臣会合フェアでの連合ドクヘリ事業の啓発、ドクターヘリ関係者会議の開催などにより、目標実現に向けた取り組みが順調に実施できている。</p>	継続実施	継続 (H26)
2	<p>救急医療人材の育成</p> <p>・広域連合管内のドクターヘリ基地病院と連携し、ドクターヘリ搭乗人材の養成研修の実施</p> <p>・各基地病院内での研修(OJT)等による人材育成</p>	<p>(1) 広域連合管内のドクターヘリ基地病院と連携し、ドクターヘリ搭乗人材(医師・看護師)の養成研修を行う。</p> <p>(2) 各基地病院内での研修(OJT)等により、ドクターヘリ搭乗人材(医師・看護師)の育成を行う。</p>	<p>各基地病院が行う実践的訓練(OJT)等によりドクターヘリ搭乗人員の養成を実施。</p>	A	<p>連携計画では、計画最終年度の平成29年度末までに連合管内の基地病院全体で125人の育成を取組目標としているが、平成28年4月時点で目標を上回る129人の育成が図られたことにより、ドクターヘリの安心・安全な運航に寄与した。</p>	継続実施	継続 (H26)	
	<p>予算額</p> <p>1,088,378千円</p>							
	<p>予算額</p>							

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域医療担当委員 飯泉 嘉門

<p>施策運営目標3 (重点方針)</p>	<p>災害時における広域救急医療体制の整備・充実</p>	<p>評価区分</p>	<p>Ⓜ・最終</p>
---------------------------	------------------------------	-------------	-------------

目標策定			評価			今後の対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
<p>1 (1) 被災地医療を統括・調整するリーダー人材の養成 ・災害医療コーディネーターの養成研修の実施 ・災害医療コーディネーターの訓練への参加</p>	<p>(1) 災害医療コーディネーター養成研修 ・開催回数: 1回(予定)</p> <p>予算額 836千円</p>	<p>広域による訓練や、合同による研修、広域防災局との連携を通じて、災害時における広域医療体制の充実が図られる。</p>	<p>・連合主催で構成府県の災害医療コーディネーターを対象とした研修会を開催予定。 ・各構成府県においても災害医療コーディネーター研修会を実施</p>	<p>B</p>	<p>引き続き、連合主催による災害医療コーディネーター養成研修会の開催を予定していることや各府県においても研修会を実施している。また、次期広域計画(中間案)でも災害医療コーディネーターのさらなる養成を重点目標とすることとした。</p>	<p>継続実施</p>	
<p>2 (2) 広域的な災害医療訓練の実施 ・大規模災害発生時における広域医療連携体制構築のための訓練実施 ・関西広域連合及び構成団体等における応援・受援体制の構築</p>	<p>(1) 近畿府県合同防災訓練と連携し、大規模災害時における広域医療連携体制構築のため、広域医療連携体制構築のための広域的な災害医療訓練を行う。</p> <p>予算額</p>		<p>南海トラフ地震を想定し、主に東海地方を被災地として想定した内閣府「平成28年度大規模地震時医療活動訓練」に連合構成団体のDMATや京滋ドクヘリ、大阪府ドクヘリ及び和歌山県ドクヘリの3機が参加し、広域医療搬送訓練を実施(H28.8)</p>	<p>B</p>	<p>着実に大規模災害発生時における広域医療連携体制構築のための訓練ができた。</p>	<p>継続実施</p>	
<p>3 (3) 緊急被ばく医療における広域連携 ・広域的な被ばく医療体制の構築に向けた検討</p>	<p>(1) 「緊急被ばく医療」に係る体制構築を図るため、広域防災局とも連携を図りながら関係機関と協議・検討等を実施する。</p> <p>予算額</p>		<p>広域防災局と連携し、引き続き広域的な被ばく医療体制の構築に向け検討を行う。</p>	<p>B</p>	<p>次期広域計画(中間案)においても、緊急被ばく医療における広域連携について、各府県放射線技師会との「放射線被ばく防止に関する包括協定」を踏まえ、引き続き広域防災分野と連携を図りながら検討を進めることとした。</p>	<p>継続実施</p>	

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域医療担当委員 飯泉 嘉門

施策運営目標4 (重点方針)	新たな連携課題に対応した広域医療体制の構築	評価区分	中間・最終
-------------------	-----------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1	(1)薬物乱用防止対策に係る 広域連携 ・危険ドラッグの撲滅に向けた 研修会の実施	新たな連携課題に対応した広域医療 体制を構築することにより、構成団体が 単独で取り組むことと比較して、課題の 解決に向けて、効率的・効果的な事業実 施が期待できる。	危険ドラッグ実務担当者会議及 び危険ドラッグ合同研修会を開催 予定(H28.11)	B	引き続き、危険ドラッグ撲滅に向 けた担当者会議及び合同研修会を開 催する予定である。	継続実施	
	予算額						
2	(2)専門分野における広域連携 ・「小児がん拠点病院」を中心と した連携に向けた検討 ・「近畿ブロック周産期医療広域 連携」の取組を継続しつつ、周 産期医療の連携体制を構築	(1)国の動向を踏まえながら、「小児がん医療」連 携に向けた検討を行う。 (2)近畿ブロック周産期医療広域連携検討会を開 催する。	・近畿ブロック周産期医療広域連 携検討会の事務局を大阪府から 関西広域連合へ移管(H28.4) ・平成28年度近畿ブロック周産期 医療広域連携検討会を開催 (H28.9)。鳥取県の加入が決定し、 連携体制の拡充を図った。 ・連携計画推進委員会の意見や国 の動向を踏まえながら、小児がん 医療における連携について、今後 も検討を行う。	B	連合が近畿ブロック周産期医療広 域連携検討会の事務局を担うことと し、鳥取県の加入も決定し、周産期 医療の連携体制の拡充を図った。	継続実施	
	予算額						
3	(3)広域医療連携に係る調査 研究及び広報 ・連携課題の抽出を行い、調査 研究及び広報を実施	(1)ジェネリック医薬品、アルコール依存症対策およ び臓器移植推進に向けた情報共有	各構成団体の取組状況等を調査 し、情報共有を図ることとしている。	B	連合管内の高度医療や先進医療 が受けられる医療機関をホームペ ージで情報発信している。引き続き、各 構成団体と情報共有を図っていく。	継続実施	
	予算額						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者： 広域環境保全担当委員 三日月 大造

基本目標 (目指すべき将来像)	◆地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西 ―環境先進地域「関西」へのさらなる挑戦―
	○暮らしも産業も元気な低炭素社会 ○生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会 ○すべてのものを資源と考える循環型社会 ○安全・安心で歴史と文化の魅力あるまち ○持続可能な社会を担う人材の宝庫
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府縣市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	「関西広域環境保全計画」の推進	評価区分	中間 最終
-------------------	-----------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1	<p>・「関西広域環境保全計画」を推進するため、有識者会議等において事業の点検・評価を行い、計画の継続的改善を進める。</p> <p>○外部有識者で構成する「関西広域環境保全計画に関する有識者会議」において、事業の実施状況を報告し、事業の点検・評価等において助言を得て、計画の進行管理を行う。 ・有識者会議の開催(2回) ○現行計画の進行管理を踏まえて、有識者会議等において検討を進め、次期広域環境保全計画をとりまとめる。</p>	<p>・都市と自然が近接するなどの関西の特性を活かして、関西広域環境保全計画を推進することで、関西における環境分野の広域的課題の解決につながる。</p>	<p>・8月に開催した有識者会議において、次期計画の改定素案について検討を行った。 なお、現在、パブリックコメント(9/26～10/26)を実施しており、意見の集約後、有識者会議で、現行計画の点検・評価と併せて検討を予定している。</p>	B	<p>・次回の有識者会議を11月に予定している。 ・次期計画については、今年度末の改定に向けて作業を進めている。</p>	継続実施	継続 (H26)
	予算額	573千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者： 広域環境保全担当委員 三日月 大造

基本目標 (目指すべき将来像)	◆地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西 ―環境先進地域「関西」へのさらなる挑戦―
	○暮らしも産業も元気な低炭素社会 ○生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会 ○すべてのものを資源と考える循環型社会 ○安全・安心で歴史と文化の魅力あるまち ○持続可能な社会を担う人材の宝庫
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	再生可能エネルギーの拡大と低炭素社会づくりの推進	評価区分	○中間 ○最終
-------------------	--------------------------	------	---------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)	
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)			
1	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及促進に向け、情報収集や統一的な情報発信を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エネルギー検討会と連携し、構成府県市および全国の導入促進施策や再生可能エネルギー発電事業の事例等の情報収集・調査研究を行うとともに、検討会議を開催し、効果的な促進方策の検討を行う。 ○ポータルサイトを活用し、構成府県市で実施している太陽光発電事業に係るマッチング事業、相談窓口等の情報、先進事例等を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの導入促進に関する情報収集や調査研究をもとに課題や情報等の共有を図るとともに、支援制度等の情報を統一的に発信することにより、各構成府県市での、より効果的な施策実施につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 7月に担当者会議を開催し、再エネの導入促進に関する現状や課題を共有するとともに、次期計画に向けて新たな促進方策を検討した。 再エネの導入促進に関する情報を統一的に発信するため、エネルギー検討会と連携し、各府県市の情報を収集し、ポータルサイトを更新した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議の開催などを通じ、構成府県市間での情報共有を進めるとともに、次年度以降の取組についてもH29年度予算編成で大まかな方向性を示す見込みである。 ポータルサイトの情報を最新に更新した。 	継続実施	継続 (H26)
	<ul style="list-style-type: none"> 予算額 	324千円						
2	<ul style="list-style-type: none"> 広域で実施することによるPR効果や効率化を活かして、温室効果ガスの排出削減に係る住民や事業者に対する啓発事業に広域的・統一的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○構成府県市だけでなく経済団体、関西以外の広域連携団体とも連携して関西夏冬のエコスタイルキャンペーンを実施するとともに、関西エコオフィス運動を広く展開するため、エコオフィス宣言事業所の拡大を図る。 ○各地域における住民・事業者への働きかけを促進するため、地球温暖化防止活動推進員や地域センターとの連携を図ると共に、環境産業展示会での温暖化対策事業のPRを行う。 ・推進員研修会や地域センターとの意見交換会等 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発活動を広域で取り組むことにより、各自治体で行う場合と比べて、事業の効率化および府県市民、マスコミへの高いアピール効果が発揮され、温室効果ガス排出の少ない暮らしや産業の定着につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> 関西夏のエコスタイル実施中。 エコオフィス大賞の企画会議を行うとともに、各府県市において宣言事業所の拡大を広報中。 センター・推進員合同研修会はともに関係機関と調整中。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 関西夏のエコスタイルキャンペーンを実施した。 エコオフィス宣言事業所は平成28年度は新たに16事業者の登録申込みがあった。(平成28年8月末現在) センター・推進員合同研修会の日程調整を行うなど開催に向けた準備をしている。 	継続実施	継続 (H26)
	<ul style="list-style-type: none"> 予算額 	1,949千円						

施策運営目標1 (重点方針)	再生可能エネルギーの拡大と低炭素社会づくりの推進		評価区分	中間 最終			
3 <ul style="list-style-type: none"> ・関西独自のエコポイント事業について、プラットフォーム事業者と連携した広報・渉外活動により参加事業者およびポイント利用者の増加を図るなど、事業の自立的な展開に向けた取組を進める。 ・温室効果ガス排出削減に資するクレジットの広域活用については、クレジット制度の周知を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プラットフォーム事業者との連携により事業のPRを実施するとともに、今後の取組についても検討を行う。 ○平成27年度に取り組んだ連合委員会の会議のオフセット取組を含めた制度の広報を行うとともに、今後の取組についても検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコポイント事業の広域での啓発活動によって、制度のPR効果が相乗的に高まり、企業の参加や、ポイント付与・還元の対象が拡大が促進され、より利便性の向上や、制度インフラの開発利用コストが削減され、消費における低炭素化につながる。 ・平成27年度に実施した連合委員会におけるカーボン・オフセットの実施事例等の広報により、クレジットの認知度が向上し、社会全体での低炭素化につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・エコポイント制度、クレジット制度とも、担当者会議において統一チラシにより、びわ湖環境ビジネスメッセなどの環境イベント等で制度広報を図ることを合意しており、今後広報活動を展開予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・エコポイント制度、クレジット制度の啓発チラシをびわ湖環境ビジネスメッセ(10/19~10/22)に向けて作成中。 	継続実施	継続 (H26)
4 <ul style="list-style-type: none"> ・広域に移動する自動車・交通部門からの温室効果ガスの排出を削減するため、電気自動車や燃料電池車等の次世代自動車の普及促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○充電環境の整備について全国レベルでの取組との連携を進める。 ・各府県市担当者や関係機関との調整会議開催 ○自動車メーカーの協賛を得て引き続き写真コンテストを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気自動車や燃料電池車等の次世代自動車普及のための広域的取組により、府県の枠組にとらわれず効果的・効率的にインフラ整備が促進され、次世代自動車の普及を通じた温室効果ガス排出の削減につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・充電インフラの全国状況と今後の対応について担当者会議等にて検討し、HPIに最新の民間マップをリンクし、進めることとした。 ・写真コンテスト募集中。 ・今後、表彰審査を行って表彰式を実施するほか、FCVの啓発手法についても検討予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議において次世代自動車の普及啓発について協議・検討を実施している。 ・7月1日から写真コンテストの募集を開始するとともに審査会開催に向けて日程調整等を実施している。 	継続実施	継続 (H26)
予算額 1,756千円							
予算額 680千円							

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者： 広域環境保全担当委員 三日月 大造

基本目標 (目指すべき将来像)	◆地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西 - 環境先進地域「関西」へのさらなる挑戦 -
	○暮らしも産業も元気な低炭素社会 ○生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会 ○すべてのものを資源と考える循環型社会 ○安全・安心で歴史と文化の魅力あるまち ○持続可能な社会を担う人材の宝庫
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	自然共生型社会づくりの推進	評価区分	中間・最終
-------------------	---------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1	<p>・府県を越えて広域的に移動し、水産業への被害や植生や生活環境への影響を与えるカワウについて、関西全体で管理を行うことにより、カワウによる被害の軽減を図る。</p> <p>○第1期広域保護管理計画に基づき、以下の取組により地域毎に被害対策実施体制の整備を進める。 ・カワウ対策検証事業の広域展開(講師派遣 3か所) ・捕獲手法の開発検討(検討結果の次期広域計画への反映) ・カワウ生息動向調査の実施(年3回調査) ・被害状況・対策状況の把握(年1回調査) ○第1期広域保護管理計画の取組評価や、カワウの生息状況等の変化、新たな知見をふまえて、関西地域カワウ広域保護管理計画(第2期)を策定する。 ・検討委員会(2回開催)</p> <p>予算額 17,633千円</p>	<p>・地域ごとに被害対策等に取り組みする体制が整備され、関西全体でのカワウ被害が軽減された、カワウと人とが共存する社会の実現につながる。</p>	<p>①カワウ対策検証事業の広域展開(講師派遣 1か所) ②捕獲手法の開発検討(検討結果の次期広域計画への反映作業中) ③カワウ生息動向調査の実施(2/3回調査済み) ④被害状況・対策状況の把握(調査着手済み) ⑤第1期広域保護管理計画の取組評価や、カワウの生息状況等の変化、新たな知見をふまえて、関西地域カワウ広域保護管理計画(第2期)を策定する。検討委員会(1回開催)</p> <p>B</p>	<p>①構成府県市の意向から、派遣予定箇所3箇所のうち1箇所に派遣済みで、他地域も予定どおりに派遣を行う見込みである。 ②策定作業中の次期広域計画に捕獲手法の記載を行っているところである。 ③春と夏の生息動向調査は実施済みで、冬期の調査についても予定どおり行う見込みである。 ④各漁協に対する被害状況等の調査について着手しており、調査は順調に進んでいる。 ⑤スケジュールどおりに広域計画を策定作業中であり、検討委員会も2回のうち1回を開催したところである。</p>	継続実施	継続 (H26)	
2	<p>・ニホンジカや外来獣等による生態系被害が深刻化していることから、被害状況の把握や広域的な捕獲体制の検討、モデル地域での実践などにより、より効果的・効率的な被害対策、人材の育成を図る。</p> <p>○捕獲事業を管理監督できる人材を養成するための講座を開設し、運営する。 講座5回(座学2回、現地3回) ○モデル地域において、捕獲技術者、自治体、土地所有者などが連携・協力した捕獲体制による試行的捕獲を実施する。 ・3箇所(滋賀県大津市比良山系、大阪府豊能郡能勢町・豊能町、兵庫県篠山地域) ○効果的・効率的な防除法を検討し外来獣等防除マニュアルを作成し普及を図る。 マニュアル配付(市町村) ○ツキノワグマにかかる担当者会議の開催(2回)</p> <p>予算額 8,647千円</p>	<p>・各構成府県市において、適切かつ迅速なニホンジカや外来獣等対策が講じられ、関西全体での野生鳥獣被害が軽減され、野生鳥獣と人とが共存する社会の実現につながる。</p>	<p>①捕獲事業を管理監督できる人材を養成するための講座を開設し、運営する。 ・講座5回(座学1回済み) ②モデル地域において、捕獲技術者、自治体、土地所有者などが連携・協力した捕獲体制による試行的捕獲を実施する。 ・3箇所(滋賀/捕獲用の柵設置中、大阪府および兵庫県/地元調整中) ③効果的・効率的な防除法を検討し外来獣等防除マニュアルを作成し普及を図る。 マニュアル配付(委託契約まで進捗) ④ツキノワグマにかかる担当者会議の開催(1回目を9/23に開催予定) ※(連携事業) 兵庫県主催による鳥獣対策人材育成研修の実施 (全8回連続講座のうち6回実施済み兵庫県森林動物研究センターにて構成府県職員が参加)</p> <p>B</p>	<p>①講座5回のうち、1回目の講座を修了したところであり、今後も予定どおり開催する予定である。 ②試行的捕獲3箇所のうち、1箇所(滋賀県)は着手済み、他の2箇所(大阪府、兵庫県)は地元調整中であるが、今年度中に実施する予定である。 ③マニュアル作成にかかる委託業務については契約済みであり、今後具体的な作業にかかることである。今年度中には完了する予定である。 ④2回の意見交換等を予定しており、1回目の意見交換を行ったところである。2回目は今年度中に行う予定である。</p>	継続実施	継続 (H26)	

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者： 広域環境保全担当委員 三日月 大造

<p>基本目標 (目指すべき将来像)</p>	<p>◆地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西 ー環境先進地域「関西」へのさらなる挑戦ー</p> <p>○暮らしも産業も元気な低炭素社会 ○生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会 ○すべてのものを資源と考える循環型社会</p> <p>○安全・安心で歴史と文化の魅力あるまち ○持続可能な社会を担う人材の宝庫</p>
<p>平成27年度 監査委員からの 指摘事項</p>	<p>○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。</p>

<p>施策運営目標1 (重点方針)</p>	<p>自然共生型社会づくりの推進</p>	<p>評価区分</p>	<p>中間・最終</p>
---------------------------	----------------------	-------------	--------------

<p>3</p>	<p>・関西における生物多様性に関する情報の共有を図り、府県域を越えた流域全体で生物多様性を保全するとともに、生態系サービスの維持・向上を図るための基礎となるサービス指標を開発する。</p>	<p>①関西の活かしたい自然エリアを決定する ②関西の活かしたい自然エリアの普及・啓発に取り組む ③構成府県市担当者等への自然エリアの説明会を開催する ④昨年度選定した生態系サービス指標を計算し、グラフ化、地図化を行う ⑤指標をはじめ、収集・蓄積したGISデータの各構成自治体への提供 ⑥構成府県市担当者等への生態系サービス指標の説明会を開催する ⑦指標等のGISデータを様々な範囲で集計、可視化し、施策に活用するための構成府県市担当者等への研修会を開催する。</p>	<p>①②③連合域内の生物多様性を保全・活用する上で重要な地域を関西の活かしたい自然エリアとして選定、普及啓発することで、各主体が府県域を越えて生物多様性を保全・活用し、また生物多様性の理解を広げる。</p> <p>④⑤⑥生態系サービス指標を計算、見える化することで、生態系サービスの重要性の気付きとなる他、生物多様性施策の目標として施策の効果の確認などに利用される。</p> <p>⑦これまでの事業で共有・一元化した生物多様性情報(GIS)を利用するための研修会を開催することで、各構成府県市で生物多様性情報が活用され、より効果的な施策が推進される。</p>	<p>①一部を除きエリアを決定した。 ②啓発資料の構成を検討した。 ③今後開催する。 ④計算、グラフ化、地図化を進めている ⑤収集・蓄積したGISデータを各構成自治体に提供した(9/15) ⑥今後開催する。 ⑦8月30日に実施。</p>	<p>C</p>	<p>①エリア公表が遅れている。 ②エリア公表の遅れにより、完成が遅れる。 ③エリア公表の遅れにより、実施が遅れる。 ④今年中には計算等が終わる見込み。 ⑤既に実施済。 ⑥今後実施する。 ⑦既に実施済。</p>	<p>継続実施</p>	<p>継続 (H26)</p>
<p>予算額</p>		<p>5,000千円</p>						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者： 広域環境保全担当委員 三日月 大造

基本目標 (目指すべき将来像)	◆地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西 ―環境先進地域「関西」へのさらなる挑戦―	
	○暮らしも産業も元気な低炭素社会 ○生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会 ○すべてのものを資源と考える循環型社会 ○安全・安心で歴史と文化の魅力あるまち ○持続可能な社会を担う人材の宝庫	
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。	

施策運営目標1 (重点方針)	循環型社会づくりの推進	評価区分	○中間 最終
-------------------	-------------	------	--------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 ・廃棄物の発生抑制や循環型社会形成に向けたライフスタイルの転換を図るため、マイバッグ持参運動の推進など3R等の推進に向けた統一的な啓発を行う。	①引き続き、統一キャッチコピーおよびロゴマークを使用して啓発活動を展開する。 ②住民への啓発を兼ねてマイバッグ持参運動の啓発動画を一般公募で制作する。 ③マイボトルスポットMAPを更新し、マイボトル運動の普及を図る。 ④優れた環境資源や先進的な取組を行う企業を紹介するWEBページを作成する。 ⑤下水汚泥の広域的な利活用の可能性について検討を行う。	①②③ ・廃棄物の発生抑制に向けて、マイバッグやマイボトルなど身近なところから構成府県市民の自主的な取組を促進する。 ④廃棄物の発生抑制・再使用・再生使用に向けた事業者等の自主的な取組を促進する。 ⑤下水汚泥の広域的な利活用の検討材料として、構成府県市における下水汚泥の処理の状況の実態把握、情報共有および課題の抽出などを行う。	①各構成府県市において統一キャッチコピーおよびロゴマークを活用した普及活動を展開中。 ②「マイバッグ携帯」啓発動画制作・放映業務の委託業者を公募型プロポーザルにより選定 ③マイボトルスポットマップ運営管理業務を委託により実施中 ④経済産業省近畿経済産業局のHPで既に同様の情報を掲載されているため関西広域連合での実施を見合せ ⑤構成府県市の下水汚泥の広域的な利活用にかかる勉強会を9月に開催	B	①各構成府県市において着実に普及活動を展開できている。 ②当初の計画のとおり事業を進めており、年度内に動画の配信ができる見込みである。 ③WEBサイトの適正な運営管理により、マイボトルスポットの情報を発信できている。 ④既に同様の情報提供がなされており、目的は達成されている。 ⑤勉強会の開催および意見照会により、構成府県市における下水汚泥の処理状況や、下水道担当課の意見を把握しており、次年度に必要な予算計上を行える見込みである。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	1,650千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者： 広域環境保全担当委員 三日月 大造

基本目標 (目指すべき将来像)	◆地球環境問題に対応し、持続可能な社会を実現する関西 — 環境先進地域「関西」へのさらなる挑戦 —
	○暮らしも産業も元気な低炭素社会 ○生物多様性の恵みを身近に感じる自然共生型社会 ○すべてのものを資源と考える循環型社会 ○安全・安心で歴史と文化の魅力あるまち ○持続可能な社会を担う人材の宝庫
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	環境人材育成の推進	評価区分	○中間 最終
-------------------	-----------	------	--------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)	
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)			
1	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな自然など各地の地域特性を活かした環境学習によって、関西全域での優れた環境人材の育成を促進するため、構成府県市が環境学習を相互活用できる枠組みを構築するとともに、先進事例である滋賀県の幼児期環境学習事業をモデルとした研修会を開催し、事業実施に係るノウハウの共有を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○構成府県市における地域特有の環境学習プログラムをモデルとして、関西広域連合の圏域において、地域の環境課題等について相互に理解するための交流型環境学習を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・交流型環境学習の参加親子 100組 ○幼児期の気づきや感動を促す環境学習の効果およびその理論、実施方法等について理解を広め、幼児期の環境学習の指導者を育成するための研修会等を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・研修会の開催 5回 	<ul style="list-style-type: none"> ・関西の豊かな地域資源を活用した環境学習が共有され、子どもたちに自然を大切にす気持ちのめばえを促す環境学習が実施されるなど、環境先進地域「関西」づくりを担う人材育成に向けた各地での取組促進につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流型環境学習では、滋賀県の環境学習船「うみのこ」を活用した親子体験航海を今年度4航海実施することとし、9月末現在で2航海を実施したところ。 ・幼児期環境学習事業としては説明会を大阪府で実施し、滋賀県でも開催する予定。また研修会は和歌山県、兵庫県、大阪市、神戸市、滋賀県で実施する予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会議の開催などを通じ、構成府県市と実施の手順等について情報共有を進めるとともに、構成府県市と協力し、教育委員会等の関係者と打合せを進めることにより、円滑に取組を進めることが出来ている。 ・なお、交流型環境学習(親子体験航海)は、構成府県市の住民から定員の2倍を超える応募を頂いているほか、2巡目となる幼児期環境学習事業の研修会においては、積極的に協力頂いている園が出てきているところ。 	継続実施	継続 (H26)
	<p>予算額 2,573千円</p>							
2	<ul style="list-style-type: none"> ・環境先進地域「関西」を支える人材育成を促進するため、企業が提供する環境学習メニューや、府県市民やNPO等による環境まちづくり事例について、広域で情報共有を行い発信や有効活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各府県市で実施されている企業の環境学習プログラムの収集、共有 <ul style="list-style-type: none"> 事例収集 30件 (10構成府県市×各3事例) ・各府県市で実施されている環境まちづくり情報の収集、共有 <ul style="list-style-type: none"> 事例収集 30件 (10構成府県市×各3事例) 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と自然との関わりが深い関西で先進的に取り組まれている企業の環境プログラムや地域のまちづくり事例に関する視察や相互参照など、広域での環境学習や環境保全活動の推進につながる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等が実施する環境学習プログラムおよび環境まちづくり事例を行政間で効果的に共有するため、事例情報を収集し、構成府県市で共有する予定。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、協議のうえ決定した、情報項目について、今年度、取りまとめと共有を行う予定。 	継続実施	継続 (H26)
	<p>予算額 199千円</p>							

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域連合長 井戸 敏三

基本目標 (目指すべき将来像)	◆資格試験・免許事務等事務の一元的な実施・管理による効率化
	○調理師、製菓衛生師及び准看護師に係る試験・免許交付等事務の円滑な実施とさらなる効率化を図る。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府縣市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	資格試験、免許等事務の着実な推進	評価区分	中間 最終
-------------------	------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)	
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)			
1	調理師、製菓衛生師、准看護師の各試験を年1回確実に実施する。	①試験問題作成のため、試験ごとに試験委員会、調整部会を複数回実施する。(試験委員会2回、調整部会2～3回程度予定) ②予備問題の作成、セキュリティ強化に努める。	①適正な試験問題を作成することができる。 ②不測の事態に適切に対応できるとともに、情報漏えいを防ぐことができる。	①調理師及び製菓衛生師は試験終了。(試験委員会2回、調整部会1回開催) 准看護師試験は来年2月に実施予定。 准看護師試験の質の確保のため「准看護師試験出題基準」を作成中。 ②准看護師の予備問題を作成中。 セキュリティ対策として、データの外部保管、免許キャビネット及び作業室の鍵管理を実施中。	B	①調理師及び製菓衛生師試験は、7月17日に試験、8月25日に合格発表を行った。出題ミスもなく、試験当日も特に支障なかった。 准看護師試験については来年2月の実施に向けて、試験委員会及び調整部会を開催するなど準備を進めている。 「准看護師試験出題基準」は年度内に作成予定。 ②准看護師の予備問題を年度内に作成予定。 セキュリティ対策として、免許台帳のデータ化は年度後半に実施予定。倉庫及び作業室に鍵付きロッカーの整備を検討中。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	162,734千円						
2	調理師、製菓衛生師、准看護師に係る免許交付等事務及び行政処分を適切に行う。	①免許申請に対する処理を正確、迅速に行う。 ②非行のあった免許所有者に対して厳正に対処するとともに、准看護師については、再教育研修を行う。	①免許交付は、現行の処理速度(標準処理期間30日)を維持することができる。 ②免許所有者に対する信頼が確保できる。	①免許発行数(9月末現在) 調理師:3,788件 製菓衛生師:580件 准看護師:578件 サービス向上のためのアンケート調査を実施。 ②現時点で行政処分及び再教育研修の実績はない。	B	①概ね2～3週間以内には交付できている。 アンケート調査の結果、約半数の方から「満足」、「やや満足」の評価を得た。(H28.8調査) ②行政処分の対象案件について調査継続中。(2件) 再教育研修は1件予定。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	上記予算額の内数						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域職員研修担当委員 仁坂 吉伸

基本目標 (目指すべき将来像)	◆広域職員研修の実施 ○職員が構成団体内にとどまらず、“関西”という幅広い視野で広域課題に取り組むことができる能力を身につける。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府县市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	・幅広い視野を有する職員の養成及び業務執行能力の向上 ・構成団体間の相互理解及び人的ネットワークの形成 ・研修の効率化	評価区分	○中間・最終
-------------------	-------------------------------------------------------------------	------	--------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 集合型研修の実施 広域的な視点を養成し、参加 団体の職員間の活発な交流を 図る。	政策形成能力研修の実施 合宿形式により、政策立案演習を中心とした研 修を2回実施する。 平成28年度は「地域経済再生・人口減少対策 等の地域振興策」をテーマに実施予定(開催地: 徳島県)。 予算額 4,080千円	・関西における共通課題等についての研修を 通じ、広域的な視点での政策形成の能力を向 上させる。 ・各府縣市職員間の相互理解を深め、人的 ネットワークを形成する。	政策形成能力研修を2回にわたり、徳島 県徳島市等(ホテル千秋閣他)にて実施 し、合計47名が受講した。 第1回目:8月31日～9月2日 第2回目:9月28日～30日	A	①台風による影響が懸念されたが、スケ ジュールどおり事業を実施した。 ②受講者にアンケート調査を実施した結 果、「政策の企画・立案の一連の流れを 学ぶことができた」、「他の自治体の方々 と交流を深めることで新たなネットワー クが構築できた」等、良好な評価であった。 また、研修内容について受講者の98% が理解できたと回答し、講師の指導につ いて91%が良いとの回答であった。	継続実施	継続 (H26)
2 団体連携型研修の実施 各団体が主催する研修を共 有化し、多様な研修メニューを 提供する体制を整え、職員の業 務遂行能力の向上を図る。	各団体が主催する研修への相互受講参加 各団体が実施している研修に、他団体の職員が 受講できる相互乗り入れの枠の拡充を図るととも に、参加人数を増やす働きかけを行う。 また、受講を通じた人的交流を促進する。 予算額 -	・他団体の研修を受講することを通じ、各団体 の地域性や多種多様な考え方を習得する。 ・各府縣市職員間の相互理解を深め、人的 ネットワークを形成する。	今年度、22研修で相互乗り入れを実施 予定。 9月末時点で、8研修101名が受講してい る。	B	①スケジュールどおり、事業実施の見込 みである。 なお、本事業の研修については、随時 募集しているため、今後も構成団体へ提 供を呼び掛けていく。	継続実施	継続 (H26)
3 WEB型研修の実施 研修の効率化及び受講機会 の拡大につなげる。	WEBを活用した研修の実施 研修本会場と他会場をWEBで結んだ「WEB型 研修」を実施する。 予算額 -	・移動に係る時間、費用の削減 ・研修受講機会の拡大	8月3日に「政策形成能力研修事前研 修」をWEB型研修で実施。大阪会場、京 都會場へ配信した。 また、11月29日～30日には和歌山県主 催の「民法講座」で本会場とサテライト会 場とのやりとりを重視した双方向型の WEB型研修を実施予定。	B	①スケジュールどおり、事業実施の見込 みである。 なお、本事業の研修についても、随時 募集しているため、構成団体にWEB型 研修の実施を呼び掛けていく。	継続実施	継続 (H26)

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 関西広域連合長: 井戸 敏三、担当委員 国出先機関対策委員長: 井戸敏三

基本目標 (目指すべき将来像)	◆関西全体の広域行政を担う責任体制を確立する ○国出先機関の事務・権限の受け皿として国と地方の二重行政の解消に取り組む。 ○関西全体として、スリムで効率的な行政体制へ転換し、全国に先駆け地方分権の突破口を開く。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	国出先機関の広域連合への移管をはじめとする分権改革の実現に向けた効果的取組の実施	評価区分	中間・最終
-------------------	------------------------------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1	<p>(1) 国・構成団体との調整・協議等 ・国出先機関の移管をはじめとする国の事務・権限の移譲に向け、政府へ働きかけを行う。(適時適切な要請、意見書提出、コメント発出等)</p> <p>(2) 構成府県・市の意見を踏まえつつ、広域連合委員会の場において協議、検討する。 (3) 国の事務・権限の移譲に向けた関連法案整備及び政府諮問機関等での検討に係る内閣府・関係省庁等との協議を行う。(政府の地方分権改革有識者会議における「提案募集方式」への対応等を含む)。 ●昨年度並みの提案件数を指す (H27年度:25件) (3) 適時適切に関西広域連合としての要請・意見書提出・コメント発出等を実施する。</p> <p>予算額 588千円</p>	<p>・出先機関をはじめとする国の事務・権限の移譲を通じた国と地方の二重行政の解消、府県域を越える広域行政の一元化</p> <p>●提案の採択率について、前年度を上回ることを目指す。 (H27年度:40% 10件/25件)</p>	<p>・6月6日、国の地方分権改革に関する提案募集に対し、「関西圏の総合的な形成と土地利用・整備・保全を一体的に推進するための事務・権限」など、大括りの提案を含めた19項目の提案を提出。 ・8月2日、当該提案のうち「内閣府と関係府省との間で調整を行う提案」と区分された7項目について各府省の第1次回答があり、8月22日に当該回答に対する意見等を提出。</p>	B	<p>・10月上旬には各府省からの第2次回答を公表予定。今後内閣府と関係府省で折衝を行い、12月中下旬に対応方針が閣議決定される予定。</p>	引き続き、内閣府及び関係省庁に対して、国の事務・権限の移譲を求めていく。	継続 (H26)
2	<p>(1) 琵琶湖・淀川流域の抱える全体の課題を取りまとめ、国や流域の府県、市町村、活動団体、住民等と情報共有を図る。 (2) 今後の広域的な流域対策のあり方や統合的流域管理について議論を深め、提言書としてとりまとめる。</p> <p>予算額 1,185千円</p>	<p>・琵琶湖・淀川流域対策に係る課題を流域自治体等が共有し、今後の広域的な流域対策のあり方や、統合的流域管理の可能性及び関西広域連合の役割などを明確にする。</p>	<p>・6月26日、第70回関西広域連合委員会に研究会委員(座長・副座長・顧問等)を招へいし、進捗報告および意見交換。 ・9月22日、第73回関西広域連合委員会に最終報告書を提出。 ・今後、優先課題を絞り込み、次年度以降から具体的な政策検討を行うことが確認された。</p>	A	<p>・既存の枠組みでは積極的に取り組まれて来なかった広域的・分野横断的な課題を整理するとともに、解決の方向性、関西広域連合の役割を示し、当初の目的を設定期間内に達成した。 ・検討結果が、広域課題の責任主体としての今後の関西広域連合の取組に繋がった。</p>	・課題を絞り込み、具体的な政策検討を進めて行く。	継続 (H26)

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者：特区担当委員 松井 一郎

基本目標 (目指すべき将来像)	◆世界に開かれた経済拠点を有する関西 ○グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、関西の各地域の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点“関西”を目指す。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	◆関西広域連合としての事業展開のあり方について ・分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府县市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	規制緩和等の実現に向けた戦略的な提案と国への働きかけの強化	評価区分	中間・最終
-------------------	-------------------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 ・国家戦略特区及び関西イノベーション国際戦略総合特区事業の推進 ・規制緩和等の実現に向けた戦略的な提案と国への働きかけの強化	・国家戦略特区をはじめとする特区制度の改善や、活用促進に関する国への提案(国成長戦略等への関西からの提案、関係省庁との調整等) ・官民一体となった地域協議会事務局の運営を通じた関西国際戦略総合特区事業のさらなる推進 ・特区事業の広報	・特区事業の推進に伴う国際的なイノベーション拠点の形成	・国家戦略特区については、これまでに、関西圏(大阪府、兵庫県及び京都府)が23事業、養父市が16事業の規制改革事項等を盛り込んだ区域計画の総理大臣認定を受け、それぞれ事業を推進している。 ・関西国際戦略総合特区については、全国最多となる51プロジェクト(92案件)が認定されている。また、関西国際戦略総合特区の29年度以降の計画更新に向け、地域協議会事務局において検討を行い、国との協議を行っている。 ・地域協議会HPにおいて、総合特区にかかる情報を発信。 ・国家戦略特区をはじめとする特区等を活用した関西の活性化について国へ要望。(28.6)	B	・各特区制度を活用した事業が着実に実施されている。 ・地域協議会事務局において、関西国際戦略総合特区事業の進捗管理や、計画更新の協議検討が行われている。 ・HPを通じた情報発信がなされている。 ・国家戦略特区等の活用による、産業の国際競争力強化等を着実に推進するため、各特区における税制・財政支援制度充実に関して、国へ提案・要望を行っている。	継続実施	継続 (H26)
	予算額	2,100千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者:イノベーション推進担当委員 井戸 敏三

基本目標 (目指すべき将来像)	◆世界に開かれた経済拠点を有する関西 ○グローバル化に伴う地域間競争に打ち勝つため、関西の各地域の強みを束ね、弱みを補うことにより、関西全体で「人・モノ・情報」の流動化を図り、世界に開かれた西日本の経済拠点“関西”を目指す。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	◆関西広域連合としての事業展開のあり方について ・分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府县市単独や一部の府縣市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	産学官連携によるイノベーションの強化・推進	評価区分	中間・最終
-------------------	-----------------------	------	-------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1 (1) 関西圏の健康・医療の創生 関西の健康長寿を達成するための 新産業の創造や、安心かつ健康に 生活できる持続可能性のあるまち づくりを目指す「関西健康・医療 創生会議」の取組を支援し、健康・ 医療分野における産学官連携を 促進する。	・「関西健康・医療創生会議」の 分科会・研究会等の運営や、創生 会議の取組への企業の参画を促進 するシンポジウムの開催など、産 学官連携を促進する仕組みを支援 する。 ・地方創生推進交付金を受け、ア カデミアと企業とのマッチングを 図るコーディネータを設置し、産 学官連携を促進する。	・アカデミアにおいて、「関西健康・ 医療創生会議」の検討や研究開発・ 実証研究を主導、産業界において、 アカデミアの指導のもと、研究開 発や実証研究を自己経費や国のプロ ジェクト資金を獲得して実施し、 産学官がそれぞれの役割に応じて 連携を図り、関西圏の健康・医療 の創生に向けて取り組む。	・企業の関心の高い「医療と健康 に貢献する人工知能」をテーマに シンポジウムを開催(5月)、320 名参加(企業参加者6割) ・分科会リーダー会議を開催(8 月)し、アカデミアと企業の一層 の連携促進など今後の方向性につ いて検討協議	B	・シンポジウムでは多数の企業が 参加し、健康・医療分野でのAI技 術の活用について、関西で取り組 んでいく必要性を喚起した。 ・各分科会では、産学連携による 国プロジェクト資金獲得に向けた 動きをはじめ、産学官連携の取組 を推進している。	継続実施	継続 (H28)
	予算額	7,191千円					

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者：エネルギー検討会座長 三日月 大造・松井 一郎

<p>基本目標 (目指すべき将来像)</p>	<p>◆広く国民の理解が得られているエネルギー政策のもとで、 ・環境に配慮した、低廉で安全かつ安定した電力・エネルギー供給体制が構築されている。 ・関西の高い省エネ意識の下、省エネ型ライフスタイル・ビジネススタイルが定着している。 ・関西の特性に応じた再生可能エネルギーが最大限活用されている。 ・関西の企業が有する技術・強みが活かされ、活発な産業活動が行われている。</p>
<p>平成27年度 監査委員からの 指摘事項</p>	<p>○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。</p>

<p>施策運営目標1 (重点方針)</p>	<p>エネルギー政策の推進</p>	<p>評価区分</p>	<p>①中間・最終</p>
---------------------------	-------------------	-------------	---------------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
<p>1 夏・冬の電力需給対策に取り組むとともに、関西エネルギープラン(平成26年3月)に掲げる望ましいエネルギー社会の構築に向け、必要な知見・情報の収集・発信・国への提案を行う。</p>	<p>・電力需給見通しの検証を行い、必要に応じて、節電取組を促進する各種対策を展開する。 ・再エネ導入促進等に関する情報収集、構成府県市間の情報共有を図るとともに、ポータルサイトを活用し施策等の情報発信を行う。 ・再エネ導入促進、エネルギー関連技術の開発の促進等に関する国への提案を行う。</p> <p>予 算 額 2,633千円</p>	<p>・夏冬における電力需給のひっ迫が回避される。 ・構成府県市において効果的に施策が推進され、省エネや再エネの取組が促進される。 ・広く国民の理解が得られた総合的・計画的なエネルギー政策が展開される。</p>	<p>・夏は電力需給ひっ迫回避のための特別な取組の必要性はないと見込まれた。ただし、電力消費が増大する時期であるため、省エネルギーを呼びかけた。 ・国や構成府県市等の関連情報を収集し、その情報をポータルサイトを活用して発信している。 ・エネルギーを取り巻く状況を踏まえて、再生可能エネルギー導入への積極的な取組などについて6月に平成29年度国の予算編成等に対する提案を行った。</p>	<p>B</p>	<p>・夏においては電力需給ひっ迫がなく、安定的に電力が供給された。 ・国や構成府県市の関連施策についてポータルサイトで情報発信を実施中。 ・再生可能エネルギー導入への積極的な取組などについて国への提案を実施。</p>	<p>継続実施</p>	<p>継続 (H26)</p>

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域インフラ検討会座長 井戸 敏三

目標設定者: 広域インフラ検討会幹事長 仁坂 吉伸

<p>基本目標 (目指すべき将来像)</p>	<p>◆人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点関西 ○経済、環境、医療、観光等における関西の魅力を活かして人が集い、また、港湾や高速道路等の一体的な管理運営による物流コストの低減にも配慮した創造的基盤を構築し、人やモノの交流を支える基盤を有するアジアの交流拠点”関西”を目指す。</p>
<p>平成27年度 監査委員からの 指摘事項</p>	<p>○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。</p>

<p>施策運営目標1 (重点方針)</p>	<p>広域交通インフラの機能強化</p>	<p>評価区分</p>	<p>中間・最終</p>
---------------------------	----------------------	-------------	--------------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
<p>1</p> <p>関西全体の発展に必要な広域インフラについて、「広域交通インフラの基本的な考え方」も踏まえ、検討を行う。 ・関西主要港湾の機能強化に向けた広域的な連携について検討 ・リニア中央新幹線の全線同時開業に向けた取組について検討</p>	<p>(企画部会) ・構成府県市等との調整・協議 ・政府要望内容の検討・調整</p>		<p>・構成府県市等との調整・協議 ・政府要望内容の検討・調整</p>	<p>B</p>	<p>・関西創生戦略、次期広域計画について構成府県市等との調整・協議 ・平成29年度国の予算編成等に対する提案(6月)の検討・調整 ・北陸新幹線(敦賀以西)整備にかかる課題について構成府県市等で検討</p>	<p>継続実施</p>	<p>継続 (H27)</p>
<p>2</p>	<p>(大阪湾港部会・日本海側拠点港部会) ・関西主要港湾の具体的な広域連携施策について実施を進める。</p>	<p>・関西主要港湾が広域的な連携を図ることにより、関西地域経済の活性化に寄与する。</p>	<p>・各主要港湾の機能強化の観点から、連携施策について今後の方向性を検討</p>	<p>B</p>	<p>・今後も引き続き連携施策について方向性を検討する</p>	<p>継続実施</p>	<p>継続 (H27)</p>
	<p>予算額</p> <p>—</p>						

広域連合の管理運営分野に係る施策運営目標

目標設定者: 広域連合長 井戸 敏三

基本目標 (目指すべき将来像)	◆広域連合の見える化の推進
	○広域連合の取組の「見える化」推進を目的とした、ホームページやSNS(フェイスブック)等による情報発信を行うとともに、関西広域連合章など、新たな広報媒体の作成を行う。
平成27年度 監査委員からの 指摘事項	○分権型社会の実現など、関西広域連合設立当初のねらいを念頭に置き、府県市単独や一部の府県市間の連携で対応できる内容の事業ではなく、広域連合として広域的な課題解決をより一層進めるための事業を展開することが望ましい。

施策運営目標1 (重点方針)	情報発信の推進	評価区分	○中間・最終
-------------------	---------	------	--------

目標策定			評価			今後の 対応方針	区分 (開始年度)
達成目標 (施策運営目標の実現に 向けた取組み)	アウトプット (目標の実現に向けた具体的な事業内容)	アウトカム (事業の取組みによる効果)	進捗・達成状況	評価	アウトカム (評価の理由)		
1	広域連合の取組の「見える化」推進を目的とした、ホームページやSNS(フェイスブック)等による情報発信を行い、住民等に対する認知度を引き上げる。	①住民に直結した取組事項と出前講座等、募集を全面に出した住民目線のホームページ内容の検討 ②ホームページと連携したフェイスブックの掲載強化 週1回(年間50回以上の掲載) ③より充実した内容のホームページとするための新システムの導入検討 ④連合委員会に関する情報発信方法の充実・強化	①③④ ・住民に身近な取組を発信することで連合が生活に不可欠な機能を有していることを住民に認知いただく。 ・出前講座等により、住民が連合から直接詳しい情報を知る機会があることを認知していただく。 ②フリークエントな情報発信により若年層の関心を高める。	①ホームページ掲載内容(記載内容・配置等)の検討を継続	C	①検討は継続しているが、新しいホームページ作成の前提となるCMS(ホームページ編集ソフト)を平成29年度に導入することが困難となったため、新しいホームページの掲載開始が遅れる。	平成30年度のCMS導入を目指し、継続各分野事務局との協議しながら継続検討
				②報道資料提供に合わせ掲載中 ③新システム導入に関する分野事務局に対する意向調査を実施 ④傍聴者席を会場内に設置	B	②フェイスブックの掲載により身近な情報発信を実施中 ③分野事務局の意見を集約し次年度に必要な予算計上を行える見込みである。 ④傍聴者席設置により住民に直接情報提供する手段を構築した。	継続実施
2	関西広域連合章など、新たな広報媒体を作成し、視覚的に分かりやすい広報活動を実施する。	①シンボルマークの設定 ・シンボルマークを設定する。 ・連合委員や議員、職員の徽章や名刺、連合委員会でのバックボード等にシンボルマークのデザインを採用し、広報手段とする。 ②新たな広報媒体 ・メールマガジンの配信を9月から実施(購読者数1,000名以上) ・構成府県市での連合委員会、連合議会開催の機会等を利用し、構成団体の広報誌などに、関西広域連合の取組紹介等を掲載する。	①親しみやすくわかりやすいシンボルマークを多方面に配付することができ、視覚的效果により認知度が向上する。 ② ・メールマガジン新規購読者に対する情報発信及び購読者へのアンケートにより住民への情報発信と住民ニーズ把握が可能となる。 ・多くの住民が読む構成団体広報誌に掲載することにより住民の認知度と関心を向上させることができる。	①・シンボルマークを選定 ・H28.9末にガイドラインを作成	B	①シンボルマーク活用の準備を終える見込み。下半期早期にシンボルマークの活用を開始できる見込みである。	継続実施
				②・メールマガジン配信サービス事業者を決定 ・メールマガジン配信作業準備中	C	②配信目標時期(9月)が遅延したことに伴い、配信を開始時期が遅延する見通し。	継続実施 ・購読者募集方法の再検討
	予算額	千円					
	予算額	1,048千円					新規